はじめに

本市では、平成27年度3月に策定した本市教育振興基本計画である「わが都市(まち)すいたの教育ビジョン（中間見直し版)」に基づき、「今　吹田から　未来(あす)の力を」の教育理念のもと、「総合的人間力の形成」、「社会全体の教育力の向上」、「豊かな教育環境の創造」を基本目標に掲げ教育課題に取り組むとともに、将来に明るい展望を持ち、力強く未来を切り拓いていく教育を学校・地域・社会が一体となって進めています。

平成29年度には、新たに11校が教育課程特例校の指定を受け、市立全ての小学校で1年生から外国語活動を実施することができました。また、小中学校のコンピュータ教室の学習用パソコンを新しくするとともに、教職員に1人1台相当のパソコンを配備したり、各校にICT支援員を配置したりする等、情報教育機器を活動しやすい環境づくりに努めました。

【報告書の概要】

本報告書は、*地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、平成29年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育委員会自らが点検及び評価を行った結果をまとめたものです。

教育ビジョンの47施策のうち平成29年度の「重点項目（施策)」に位置付けた15施策46事業を対象とし、教育委員会自らが重点項目ごとに点検及び評価を実施し、平成29年度中の取組の状況と評価、及び今後の課題・方針を取りまとめました。

さらに、教育委員会が行なった点検及び評価等について、学識経験者から知見をいただきました。

引き続き、効果的な教育行政の推進に努めるとともに、本報告書については市ホームページ等を通じて公表します。

わが都市すいたの教育ビジョン体系図

基本構想

教育理念

今 吹田から 未来(あす)の力を

生命(いのち)かがやき ともにつながり 未来を拓(ひら)く吹田の教育

基本目標１

総合的人間力の形成

～学びを高め、健やかな心と体を育む教育～

基本目標２

社会全体の教育力の向上

～支えあい、地域とともに歩む教育～

基本目標３

豊かな教育環境の創造

～豊かな学びを支援する教育環境～

基本計画

基本方向１　幼児教育を充実し総合的人間力の基礎を培います

- 施策１　人とかかわる力を育む教育の充実
- 施策２　小学校との円滑な接続を重視した教育内容の充実
- 施策３　子育て支援の推進
- 施策４　認定こども園化の推進

基本方向２　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します

- 施策５　小中一貫教育の推進
- 施策６　確かな学力の育成
- 施策７　心の教育の充実
- 施策８　健康・体力づくりの推進
- 施策９　今日的課題に対応した教育の推進
- 施策10　生徒指導の充実
- 施策11　教育相談の充実
- 施策12　進路指導の充実
- 施策13　特別支援教育の充実

基本方向３　人生をより楽しく豊かに生きる生涯学習・生涯スポーツを進めます

- 施策14　生涯学習推進体制の整備
- 施策15　生涯学習プログラムの充実
- 施策16　生涯学習情報の提供
- 施策17　地域スポーツの振興
- 施策18　スポーツイベント・プログラムの充実
- 施策19　健康づくり事業の推進と高齢者・障がい者スポーツの振興
- 施策20　スポーツ情報の提供

基本方向４　豊かな社会の実現に向けた人権教育を進めます

- 施策21　人権教育の推進
- 施策22　人権啓発の推進

基本方向５　地域の風がゆきかう学校・園づくりを進めます

- 施策23　地域や保護者との連携による教育の推進
- 施策24　地域や保護者に信頼される開かれた学校・園づくり

基本方向６　地域全体で教育力の向上を図ります

- 施策25　家庭教育の支援と青少年育成
- 施策26　青少年団体、青少年指導者の育成
- 施策27　青少年の仲間づくり・居場所づくりの推進
- 施策28　青少年施設の有効活用と相互連携
- 施策29　青少年が安心して安全に活動できる環境づくりの推進
- 施策30　青少年相談の充実
- 施策31　教育コミュニティづくりの推進
- 施策32　スポーツ団体の育成
- 施策33　スポーツ指導者の養成・活用

基本方向７　安心・安全で豊かな学校・園の教育環境を整備します

- 施策34　学校・園施設の整備
- 施策35　安心・安全の確保
- 施策36　情報教育環境の整備
- 施策37　就学（修学）の援助
- 施策38　過大校等の教育環境の整備
- 施策39　学校規模適正化の検討

基本方向８　信頼と責任のある学校・園づくりを進めます

- 施策40　学校・園運営体制の確立
- 施策41　教育資料の提供と教職員研修の充実
- 施策42　教職員の人事管理の適正化

基本方向９　生涯学習・生涯スポーツ環境の整備を進めます

- 施策43　生涯学習施設の整備・充実
- 施策44　スポーツ施設の整備

基本方向１０　開かれた教育行政を進めます

- 施策45　教育情報の発信
- 施策46　教育施策の点検・評価
- 施策47　総合教育会議の開催

部分の施策が重点項目です

【点検・評価の見方】

「平成29年度　重点項目」及び「重点項目を構成する事業の概要等」については、平成28年度末に平成29年度に取り組むべき内容として設定しています。

平成29年度　重点項目

○

重点項目名

重点項目の内容

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標

基本方向

施　　策

事業名と担当室課名

平成29年度の実績及び平成31年度の目標値

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】　【担当課】

【H29実績】　達成状況

事業の概要および平成29年度の実績等

【指標】　【考え方】　【H31目標値】

事業の実績とその評価を図る指標

平成31年度の指標の目標値の設定について

各事業の達成状況（※）

千円　H29当初予　決算見込額

取組の状況と評価　達成状況

平成29年度の重点項目についての取組の状況と評価

重点項目の達成状況（※）

今後の課題･方針

（※）達成状況の考え方
A：達成（設定した目標に対して順調に進めることができた）
B：一部達成（設定した目標の一部のみ進めることができた）
C：未達成（目標達成に取り組んだものの目標に達しなかった）
D；未実施（取組ができていない）
－：目標値が数値化できないもの

平成29年度　重点項目

1　小学校との円滑な接続を重視した教育内容の充実

園児の発達や学びの連続性を確保する観点から、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を設定し、小学校教育への円滑な接続に向けた教育及び、保育内容の工夫をしていきます。また、新幼稚園教育要領の実施を平成30年度に控え、その趣旨を理解し、各園で幼児の生活全体を捉えた指導計画の作成を進めていきます。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標1　総合的人間力の形成

基本方向1　幼児教育を充実し総合的人間力の基礎を培います

施　　策2　小学校との円滑な接続を重視した教育内容の充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】保育所・幼稚園・小学校の連携事業		【担当課】保育幼稚園室	
保育園児や小学生といった年齢や生活経験の異なる子どもたちとの遊びや行事の交流を積極的に行い、人とかかわる力を育みます。また、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭との合同研修の実施、互いの保育・教育の参観や体験を行い、幼児教育の充実と円滑な接続に取組みます。		【H29実績】 8回/年	達成状況 A
【指標】 交流の回数	【考え方】 ねらいをもち、計画に基づいた交流を実施する。	【H31目標値】 8回/年	
H28決算額　0　千円	H29当初予算額　0　千円	H29決算見込額　0　千円	

【事業名】研究幼稚園事業		【担当課】保育幼稚園室	
幼児の実態を捉え、各園で特色のある教育課程を展開するとともに、今日的課題について研究を推進し、教員の資質や専門性を高め、幼児教育の充実に努めるとともに、成果を発信することで、公立園全体の教育力を高めます。		【H29実績】 2回	達成状況 A
【指標】 研究発表会実施回数	【考え方】 研究幼稚園が、他園、他校種の教職員に研究成果を発信する場をもつ。	【H31目標値】 2回	
H28決算額　80　千円	H29当初予算額　80　千円	H29決算見込額　80　千円	

【事業名】幼稚園教員研修事業		【担当課】保育幼稚園室	
幼稚園教育に関する専門知識・技術の習得や円滑な幼稚園運営のために必要な研修を行い、教職員の資質の向上と質の高い幼児教育の提供に努めます。		【H29実績】 100%	達成状況 A
【指標】 アンケートの肯定的回答	【考え方】 研修参加者が、資質の向上に役立ち、活かしていける研修内容	【H31目標値】 100%	
H28決算額　60　千円	H29当初予算額　60　千円	H29決算見込額　68　千円	

取組の状況と評価

達成状況：A

各園において地域の保育園児や小学校との交流を積極的に進めることができました。園内研修や研究保育等について発信を行い、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭各々が幼児教育についての理解を深める機会となりました。

新幼稚園教育要領の実施に向け、教育課程検討委員会を立ちあげ、既存の「吹田市幼稚園教育課程編成の基準」を改正することができました。また、吹田市独自で幼稚園教育研修会を年5回、ステップアップ研修を年2回行い、幼児教育について様々な側面から幼稚園教諭の資質向上を図りました。

2園の幼稚園に研究を委嘱し、新幼稚園教育要領の考え方に基づいた実践・研究を行うことができました。研究発表には他市の幼稚園教諭や本市の保育士・小学校の教員の参加があり、お互いが学び合う機会となりました。

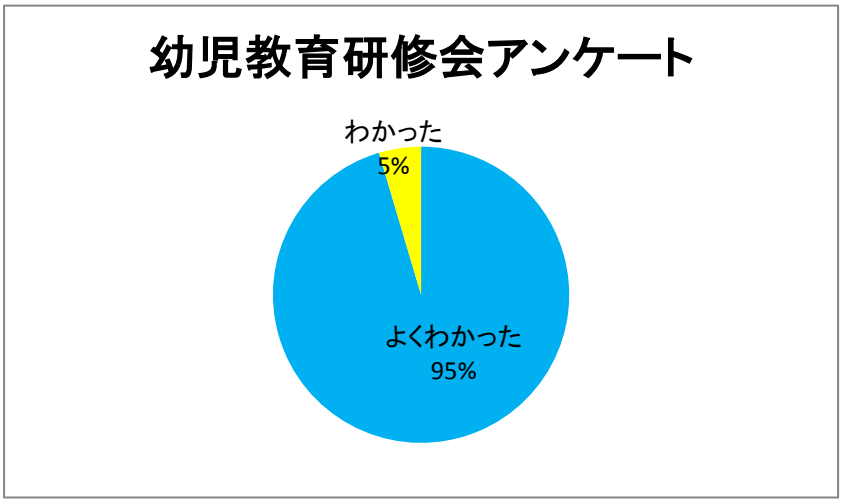
今後の課題・方針

新幼稚園教育要領に基づき、幼児教育において育まれる資質・能力を踏まえ、平成30年度はさらに小学校教育との連携が円滑に行われるように、合同の研修の機会を設け、互いに意見交換を行い理解を深めていきます。また、経験の浅い幼稚園教諭が増加する中、課題に応じた研修を計画的に実施することで資質向上に努め、小学校への円滑な接続に向けた質の高い幼児教育を提供できるようにします。

＜幼児教育研修会について＞

１ 研修内容
① 子供虐待の早期発見と対応
② 子供の行動から読み取る特別支援教育
③ 子供達と一緒に絵本タイムを楽しもう
④ 子供と一緒に造形活動を楽しむために
⑤ 幼稚園教育要領等改訂と保育の質について

２ アンケートについて
■回収数　305通（回収率　96%）



平成29年度　重点項目

2　認定こども園化の推進

本市では、*子ども･子育て支援新制度のもと、子どもを預けて働きたいという保育ニーズの急激な高まりなどから、現在多くの待機児童を生じさせています。平成28年度から待機児童解消をめざして取り組んでいる待機児童解消アクションプランの方策の一つとして、公立8園の幼稚園型*認定こども園化を平成30年度までに実施します。平成29年度には吹田第一幼稚園、吹田南幼稚園の2園が移行し、昨年度移行した佐竹台幼稚園と合わせ3園を幼稚園型認定こども園として運営します。認定こども園では、*1号認定、2号認定の子どもを同じクラスで編制し、教育時間には今までの学校教育としての幼児教育を提供します。そのために、教員の資質の向上を図り、教育内容の充実に努めます。なお、公立の認定こども園は、平成30年度に開園を予定している幼保連携型認定こども園と合わせ9園になります。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標１　総合的人間力の形成

基本方向１　幼児教育を充実し総合的人間力の基礎を培います

施　　策４　認定こども園化の推進

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】幼稚園型認定こども園整備事業		【担当課】保育幼稚園室	
3歳児の待機児童対策として既存の施設を活用し、保育を必要とする児童を含む3歳児以上の児童を対象とする施設として幼稚園型認定こども園を29年度に2園、30年度に5園開園します。		【H29実績】 8園	達成状況 A
【指標】 幼稚園型認定こども園として運営する園数	【考え方】 公立幼稚園単体での認定こども園化をめざしていく。	【H31目標値】 8園	
H28決算額　77,102　千円	H29当初予算額　200,251　千円	H29決算見込額　185,502　千円	
【事業名】(仮称)北千里･古江台認定こども園整備事業		【担当課】保育幼稚園室	
北千里保育園と古江台幼稚園を一体化し、古江台幼稚園用地に新たな施設を整備し、幼保連携型認定こども園を設置します。		【H29実績】 1園	達成状況 A
【指標】 幼保連携型認定こども園の整備	【考え方】 幼保連携型認定こども園として、ハード、ソフト両面で子ども達にとって望ましい形の施設となるよう整備していく。	【H31目標値】 1園	
H28決算額　62,512　千円	H29当初予算額　811,180　千円	H29決算見込額　793,527　千円	

取組の状況と評価

達成状況

A

幼稚園型認定こども園については、千里第二幼稚園を始め５園において、平成30年4月の開園に向けて、改修工事や備品等の整備・指導計画の作成などを計画的に行いました。平成28年度及び29年度に開園した3園の運営や教育・保育のマニュアルを伝達し、取組の成果や課題を共有することで、質の高い幼児教育・保育の提供に向けての準備を行うことができました。

幼保連携型認定こども園は、平成30年1月から新しい施設で古江台幼稚園として教育を行うとともに、古江台幼稚園と北千里保育園の教職員で綿密な打ち合わせと準備をし、4月から円滑に開園できるように取り組みました。

今後の課題･方針

認定こども園化については、一定の施設整備は終わりました。今後は教育・保育を進める中で生じる様々な課題への対策を講じていく必要があります。

幼稚園型認定こども園については、長時間保育の園児と教育時間のみの園児が共に育ち合えるように、園児に寄り添った教育・保育の工夫や教職員の連携などについて、こども園園長連絡会において協議し、研修などに反映できるようにしていきます。平成30年度は、佐竹台幼稚園が幼稚園型認定こども園へ移行した平成28年度に入園した園児が同園を卒園する年度となる

ことから、これまでの成果や課題の整理を行い、本市教育研究報告会において発表を予定しています。

幼保連携型認定こども園においては、保育士と幼稚園教諭とで構成するプロジェクト会議や研修などを通じて、保育教諭が新しい幼保連携型認定こども園教育・保育要領について理解を深め、適切な教育・保育が進められるようにします。

＜認定こども園の活動風景＞

はじめての給食。3歳児もおいしそうに食べています。

長時間こども園で生活する園児は、昼寝をします。

園庭で三輪車やすべり台で遊ぶのが大好きです。

平成29年度　重点項目

3　小中一貫教育の推進

「*総合的人間力」の形成を図るため、小中一貫教育を基盤とした取組を推進します。幼稚園・保育園・認定こども園と小学校とのつながりを円滑にするとともに、義務教育9年間を一体のものと捉え、学力向上や豊かな心の育成など、小・中学校が連携して子どもたちに「生きる力」を身につけさせる教育活動や子どもたちの育ちを支援します。また、*小中一貫教育実施プランⅡに基づき、各*中学校ブロックが*幼小中一貫教育カリキュラム例を参考に9年間のカリキュラム編成など小中合同研究をさらに進められるよう、小中一貫教育のさらなる充実に努めます。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標１　総合的人間力の形成

基本方向２　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します

施　　策５　小中一貫教育の推進

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】小中一貫教育推進事業		【担当課】指導室	
各中学校ブロックにおいて、義務教育9年間を一体のものと捉え、「*めざす子ども像」を共有し、課題解決する能力育成に向けた授業づくり等の学習指導、豊かな心の育成に向けた中学校ブロックにおける道徳の時間の公開授業や研究協議の実施、生徒指導の充実及び教職員の指導力、学校運営力の向上を図ります。		【H29実績】 18ブロック	達成状況 A
【指標】 幼小中一貫教育カリキュラムを編成した中学校ブロック数	【考え方】 小中一貫教育実施プランⅡに基づき、9年間の教育課程の編成等充実を図っていく。	【H31目標値】 18ブロック	
H28決算額　1,121　千円	H29当初予算額　1,210　千円	H29決算見込額　1,210　千円	

取組の状況と評価

達成状況：A

子供たちが新しい時代を生き抜くために求められている「総合的人間力」の育成を図るため、義務教育9年間を一体のものと捉え、一貫性・継続性のある教育の推進をめざし、小・中学校の緊密な連携のもと、取組を推進しています。

各中学校ブロックで「めざす子ども像」を共有し、小中一貫連携協議会（連絡会）を定期的に開催し、組織として活性化させるとともに、学習や生徒指導等における課題解決に向けて、合同研修会の開催や公開授業等、具体的な取組の充実を図ることができました。また、各ブロックごとに11教科・領域の小中一貫教育カリキュラムの作成に取り組み、「キャリア教育」については全18中学校ブロックにおいて完成させることができました。

今後の課題・方針

「*千里みらい夢学園」では、これまでの研究成果をもとに児童・生徒及び保護者にも魅力ある教育活動を展開するとともに、本市の小中一貫教育の*リーディングスクールとして、小・中学校9年間を見通した連続性のあるカリキュラム研究の成果をまとめ、「*学びのスタイル」に基づいた授業研究を行い、年間4回の公開授業・研究会を開催するなど、他ブロック及び市外にも発信し、小中一貫教育のさらなる充実を図ります。

各中学校ブロックにおいては、実態に応じて掲げた「めざす子ども像」の実現に向け、取組を推進します。平成29年度から作成に取り組んでいる11教科・領域（「キャリア教育」を除く）の小中一貫教育カリキュラムについて、平成30年度末に全18ブロックにおいて完成を目指します。

平成 29 年度　吹田市小中一貫教育推進事業

ブロック名	研　究　主　題
第一中学校	・9 年間（保幼小中 11 年間）を見据えた学習・生活課題を抽出する。 ・保幼小中の共通指導目標を設定し、共有する。 ・共通指導目標に基づいた一貫性のある教育実践を行う。
第二中学校	・人間関係づくり（集団づくり）～こどもたちをどのようにつなげていくか～
第三中学校	・ブロック統一した生活目標の検討。新入生の情報交換会の充実。 ・基礎学力の定着、自学自習力の育成・向上。コミュニケーション力の育成。 児童・生徒の力を引き出す授業づくり。 ・園児・児童・生徒の交流の充実。
第五中学校	・9 年間の義務教育における、子どもたちの発達段階に応じた指導の統一性を追究することを通して、めざす子ども像に近づけていく有効かつ具体的な取組み方法や実践を探る。
第六中学校	・言語活動－思考・表現力を高める話し合いの授業－
片山中学校	・「片山中学校ブロック…一貫性・継続性のある生活規律・授業規律の確立プラン」の幼小中共通指導事項を基に 3 校 1 園継続性のある一貫した生活規律・授業規律を身につけさせる。 ・指導内容・指導法をいかして幼・小・中の段差解消に向け、幼小中一貫カリキュラムを作成し、全教職員の理解を図る。
佐井寺中学校	・幼・小・中のつなぎを意識し、11 年間を見通した教育の実践。
南千里中学校	・「確かな学力」を育むための授業力向上を目指す。
豊津中学校	・幼稚園およびその後の 9 年間を見通した「学校生活目標」の徹底により、授業規律の確立に取り組む。
豊津西中学校	・コミュニケーション力の育成。・・・「算数・数学」「小学校外国語活動・英語」
山田中学校	・「子どもの力を引き出す授業づくり」」に取り組む。 ・「小中一貫カリキュラムにむけて」
西山田中学校	・心の通い合う子どもを育てよう。
山田東中学校	・幼・小・中・高　教職員、家庭、地域の協働による、子どもの豊かな心の育成 ・11 年間のカリキュラム編成の研究 ・「話す・聞く・伝え合う」力の育成するために、授業公開を通して研究をすすめる。
千里丘中学校	・「コミュニケーション力の育成と言語活動の充実をめざして」 ～伝える　伝わる千中ブロック～
高野台中学校	・自ら課題をもち、意欲的・主体的に学ぶ子どもの育成 幼小中連続性のある指導によって、人間関係づくりのための表現力・コミュニケーション力を高め、相互理解を深める
青山台中学校	・表現力、コミュニケーション力を高める取組み。
千里みらい夢学園	・9 年間を見通した教科カリキュラムの研究を通して、児童生徒のコミュニケーション力を育成する。
古江台中学校	・中学校区、各校園の「言語力育成」の取組み 各教科での言語力育成（言語力育成プラン）、古中ブロック 100 冊の本の取組み、国語力向上のための「古中ブロック」スタンダード、議論のルール、国際理解教育カリキュラム作成 ・生徒指導部会の取組み 古中ブロックＡＢＣ運動（Ａあいさつ Ｂベル着Ｃクリーン）、授業規律の教師心構え 9 ヶ条の取組み

幼小中一貫カリキュラム（キャリア教育）一例

中学校ブロック名
吹田市立第一中学校ブロック

中学校ブロックのめざす子ども像	**・人権尊重の精神を持ち人と社会とよりよく関わっていける子** **・落ち着いて主体的に学習に取り組む子** **・規律を理解し、進んで守る子**

【キャリア教育】

系統・項目／発達段階			幼稚園	小学校１年生	２年生	３年生	４年生
	┌ ┐は、主な言語活動を示す。		就学前	Ｉ期（1～5年生）基礎基本徹底			
めざす子どもの姿			・先生や友達と園生活を楽しむ ・身近な環境に親しみ、様々な事象に関心を持つ ・好きな遊びを見つけ、友達と思いを出し合いルールを守り遊ぶ	・自分にできることや家族について考える。 ・身の回りの事象への関心を高め、自分の役割を実践する。 ・自分の思いを友だちに伝え、友だちの思いを知る。		・社会の様々な仕事に気づき、将来について考える。 ・友だちと協力して活動する中で関わりを深める。 ・自分の思いを分かりやすく表現し、友だちを理解する。	
つけたい力	人間関係形成・社会形成能力	・他者理解力 ・他者に働きかける力 ・コミュニケーションスキル ・リーダーシップ ・公共心 ・規範意識	①好きな遊びを楽しもう。 ②ふれあい遊びをしよう。 ③朝・帰りの集まりに参加しよう。 **①親しみをもって日常のあいさつや返事をする。** **②遊びに必要な言葉がわかり、使う。** **③自分の思いをみんなの前で話す。**	①じこしょうかいゲーム（生活） ②せいかつのルールをしろう(生活) ③一年生と学校たんけん(生活) **①自分の思いをみんなの前で話す。集中して聞く。** **②聞いたことや知ったことを話や絵で伝え合う。** **③あいさつをし、わからないところをたずねる。**		①「ありがとう」を伝えよう（国語） ②地域の人と交流しよう（総合） ③「クラブ活動リーフレット」を作ろう（国語） **①気持ちが伝わる手紙を書く。** **②日頃のつながりを振り返り、自分の考えを発表する。** **③説明の仕方を工夫して、わかりやすく伝える文章を書く。**	
	自己理解・自己管理能力	・自己の役割の理解 ・忍耐力 ・主体的行動 ・ストレスマネジメント ・責任感 ・倫理観	①話し合いで、自分の思いや考えを話そう。 ②自分なりに目標を持って遊びに取り組もう。 **①したいことやしてほしいことを言葉で表現したり、わからないことを尋ねたりする。** **②よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。**	①うちでこんなことしたよ（生活） ②わたしもできるようになりたいな（生活） ③いいこといっぱい一年生（国語） ④みんな大きくなったよね(生活) **①調べたことや経験が伝わるように説明する。** **②したいと思った理由がわかるように話す。** **③④自分にできるようになったことを振り返り、話したり書いたりして表す。**		①わたしの三大ニュース（国語） ②インターネットの使い方（総合） ③健康の大切さ（保健） **①伝えたいできごとを選び、方法を工夫して表現する。** **②インターネットを利用することのよさと危険について、自分の経験と関連付けて考えを交流する。** **③生活と関連付けて、考えたことを話し合う。**	
	課題対応能力	・情報の理解 選択・処理 ・本質理解・原因追究 ・課題発見・解決 ・計画立案・実行	①ようちえんたんけんをしよう。 ②ごっこ遊びをしよう。 ③お正月にちなんだ遊びをしよう。 **①生活の中で必要な言葉がわかり、使う。** **②日常生活で、絵や文字などで伝える楽しさを味わう。**	①がっこうたんけん（生活） ②むかしあそびをしよう（生活） ③まちたんけん（生活） **①学校の様子で気になったことを言葉や絵で伝える。** **②遊びを紹介するための、わかりやすい説明を考える。** **③まちにある施設や人の様子を知り、自分の生活と関連付けて伝える。**		①校区たんけん（社会） ②公共の施設を調べよう（総合） ③消防署・ごみ処理場の見学（社会） ④校外学習に向けて（総合） ⑤児童会行事「～祭」（特活）→ **①地域の特徴や市内への広がりについて整理する。** **②施設の特徴と役割を記録し、関連付けて説明する。** **③課題解決の過程について、資料を使って説明する。** **④⑤立案したことを協議し、ルールに沿って話し合う。**	
	キャリアプランニング能力	・学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 ・役割の把握・認識 ・多様性の理解 ・将来設計・選択 ・行動と改善	①当番活動をしよう。 ②お店屋さんごっこをしよう。 ③共同的な遊びをしよう。 **①先生や友達の話に興味や関心を　持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。** **②周りの友達をお互い協力し合う。** **③相手にわかるように言葉で伝える。**	①いえのみんながたすけあっているね（生活） ②しごとめいじんだよ（生活） ③お店やさんをひらこう（生活） **①家の人の様子を調べたことを記録し、伝える。** **②身近で働く人々の様子で、伝えたいことを選ぶ。** **③掲示物や説明のよさを生かし、お客さんのことを考えたお店づくりをする。**		①スーパー・工場見学へ行こう（社会） ②１０才を祝おう（総合） **①働く人々を取材し、自分の役割や責任と関連付けながら、働くことについての考えを伝え合う。** **②将来の夢や希望について、自分の考えをスピーチしたり、文章に書いたりする。**	
評価基準			・先生や家族と一緒に園生活を楽しんでいる。 ・自分の好きな遊びを見つけ、ルールを守り、遊ぶことができる。 ・身近な環境に親しみ、様々な事象に興味や関心をもっている。	・家族や身近な周りの人への感謝の気持ちを表わそうとする。 ・学校生活でのルールを守り、自分の役割を果たすことができる ・相手を意識して聞いたり話したりし、自分の思いを伝えることができる。		・いろいろな職業や生き方を知り、自分の将来を考えようとしている。 ・友だちと協力して、目的に合った活動ができる。 ・他者を尊重しながら、自分の意見を伝えることができる。	

系統・項目／発達段階			5年生	6年生	中学校１年生	2年生	3年生
	┌ ┐ は、主な言語活動を示す。		Ⅰ期（1～5年生）基礎基本の徹底	Ⅱ期（6・7年生）連続性を意識した指導		Ⅲ期（8・9年生）進路を見据えた指導	
めざす子どもの姿			・自分自身について考え、将来の展望を持つ。 ・自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。 ・多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝える。			・自分自身の適性を知り、卒業後の進路を自ら切り開く。 ・学校内だけでなく地域社会における役割を自覚し、責任ある行動をとる。 ・自分の言動が相手や他者に及ぼす影響を理解する。	
つけたい力	人間関係形成・社会形成能力	・他者理解力 ・他者に働きかける力 ・コミュニケーションスキル ・リーダーシップ ・公共心 ・規範意識	①世界の「こんにちは」を知ろう（外国語） ②感謝の気持ちを届けよう（家庭） ③世界に広く目を向けよう（社会） ④自己紹介をしよう（英語） ⑤話し合いのルールを知ろう(国語) ①外国語を使って話しかけたり、相手の言葉を聞き取ったりすることを楽しむ。 ②周囲の人との関わりを振り返り、自分の思いを伝える表現の仕方を考える。 ③外国との関わりを調べ、比較したり関連付けたりしたことをまとめる。 ④伝える言葉を選ぶとともに、表情や身振りも生かして聞き取ったことを表す。 ⑤司会などの役割を果たしながら、互いの考えを尊重し、進行に沿って話し合う。			①履歴書作成・お礼状作成（総合） ②擬面接（総合） ①自分自身のことについて正しい文章表現で表す。 ②自分自身を客観的に見つめ、他者に適切な言葉で自分　自身を伝える。	
	自己理解・自己管理能力	・自己の役割の理解 ・忍耐力 ・主体的行動 ・ストレスマネジメント ・責任感 ・倫理観	①お金の使い方、ものの選び方を見つめよう（家庭） ②けがや病気（保健） ③個人情報を守ろう（総合） ④税の仕組み（社会） ⑤　情報モラル教育（情報・総合）→ ①経験を振り返るとともに、消費者としてこれから必要なことを考え、伝え合う。 ②自分の生活や社会の様子と関連付けて考え、自分にできることを伝え合う。 ③インターネット上の個人情報の保護について、危機管理に対する考えを交流する。 ④税の使われ方を自分の生活と関連付けながら分類し、自分の考えを述べる。 ⑤生活に関わる収支を分析し、自己のライフスタイルに基づいた考えを述べる。			→ ①職場体験の職場選び（総合） ②自己申告書を書く。(総合) ③教育（保健・総合） ①自分を見つめ、自分の適性を考えて職場を選ぶ。 ②自分自身の良い点を見つめ、それを正しく表現する ③自尊感情を高め、自分も他者も大切にするために必要なことを考える。 ⑤インターネット上において、身近な人だけでなく、不特定多数含めた他者とのかかわりを考える。	
	課題対応能力	・情報の理解 選択・処理 ・本質理解・原因追究 ・課題発見・解決 ・計画立案・実行	①食料生産を支える人たち（社会） ②宿泊学習に向けて（総合）→ ③修学旅行に向けて（総合） ④平和学習（総合） ⑤校外学習に向けて(総合)→ ⑥体育大会・一中フェスタに向けて(総合)→ ①産業の様子やその変化を自分の生活と関連付けて考え、図や言葉で発表する。 ②③立案したことをより高め合うことを目指して、ルールに沿って話し合う。 ④遺産や先人の思いに触れたことで得た経験を語り合い、広く発信する。 ⑤⑥立案したことに対して、多角的な調整を取り入れながら、話し合いを進める。			→ ①宿泊学習に向けて（総合）→ ②職業調べ（総合） ③路を考える（総合） ①行事を成功させるためのルールを話し合う。 ②自分がこれまで知らなかった職業を調べて、レポートにまとめる。 ③自分自身を客観的に見つめ、進路選択をする。	
	キャリアプランニング能力	・学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 ・役割の把握・認識 ・多様性の理解 ・将来設計・選択 ・行動と改善	①六年生を送る会に向けて（総合） ②中学校入学体験（総合） ③小学校生活をふり返ろう（総合） ④夢宣言」をしよう（外国語） ⑤将来の自分を語ろう（総合） ①上級生との関わりを振り返る中で、これからの自分のありたい姿を考え、伝え合う。 ②⑤自己の学びを軸に、これからの自分の成長や行動の選択についての考えを述べる。 ③⑤将来の自分のありたい姿を思い描き、多様な思いを伝え合う。 ④⑤多面的な見方があることを知り、交流を通して再構築した自身の考えを述べる。			①職場体験（総合） ②仕事とは（総合） ③中学三年間を振り返って（総合） ①働く経験をする中で仕事の楽しさや厳しさを知る。 ②働くことの意味や意義を話し合う。 ③卒業後の自分の人生について考えを述べる。	
評価基準			・将来の夢や希望をもち、実現を目指して努力しようとする。 ・自分の役割や責任を自覚し、互いに支え合いながら活動することができる。 ・他者の意見や立場を尊重しながら、自分の考えを多様な方法で伝えることができる。			・進路選択を前に、自分自身を客観的に見つめようとする。 ・自分自身の適性を生かし、地域社会の中で責任ある行動ができる。 ・他者の様々な立場や考えを知り、積極的に人間関係を築くことができる。	

「つけたい力」（P10・11に掲載している幼小中一貫カリキュラム中の「つけたい力」の4つの観点を表しています。）

人間関係形成・社会形成能力

・初めての体験や創意工夫した活動、他者との触れ合いを通し、きまりを守って生活する力や人間関係を築く力を身につける。

・自分の街を再確認して、町で暮らす人々や働く人々の姿から、いろいろな仕事をしていることや働くことの大切さに気付く。

・国内、世界に視野を広げ、国々が互いに影響し合っていることに気づき、自らも関わっていこうとする力を身につける。

自己理解・自己管理能力

・自分ができることやしたいことを達成する経験を重ね、自分自身に対して肯定的に考える力を身につける。

・自分自身の成長と周りで関わる人々との相互関係を理解し、自分自身の将来に対して前向きに考えられる力を身につける。

・様々な集団での自己の役割を考え、思考や感情を律しながら、今後の成長のために進んで学ぼうとする力を身につける。

課題対応能力

・課題を解決する方法としての見学や聞き取りといった活動を知り、わかったことを導き出す力を身につける。

・課題に対して、順序立てて調べたり他者に伝える上でどんな手法が適切かどうか考えたりする力を身につける。

・従来の考え方や方法にとらわれずに物事を推し進め。情報及び情報手段を主体的に選択し活用する力を身につける。

キャリアプランニング能力

・自分の生活に関わって働く人の存在を知り感謝するとともに、自分も役に立とうとする心情を育てる。

・自らが果たすべきさまざまな立場や役割との関連を踏まえて働くことを位置づけて考える力を身につける。

平成29年度　重点項目

4　確かな学力の育成

教育は、未来（あす）を拓く営みであり、子どもたちの健やかな成長は全ての人々の変わらぬ願いです。この教育を通して、本市は「確かな学力」の育成をめざしており、子どもたちに知・徳・体のバランスのとれた「総合的人間力」の形成をめざす基盤となっています。*全国学力・学習状況調査結果の分析により、これまでの教育施策の成果と課題を検証し、授業改善等の具体的方策を小・中学校に示すことで、「確かな学力」の育成を図ります。また、放課後学習支援事業をはじめとする学力向上の取組を充実させることにより、児童・生徒の学習意欲や自学自習力のさらなる向上をめざします。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標１　総合的人間力の形成

基本方向２　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します

施　　策６　確かな学力の育成

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】放課後学習支援事業		【担当課】指導室	
児童・生徒の学習意欲の向上や自学自習力の育成を図るための学習支援者を配置し、放課後等に学習支援を行うことで、学力の向上をめざします。		【H29実績】 小学校　61% 中学校　50%	達成状況 B
【指標】 「自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童・生徒の割合	【考え方】 全ての学校で「自分で計画を立てて勉強する」項目で全国値/吹田市（平成28年度小62.2%/55.8%、中48.4%/49.5%）を上回るよう、放課後学習を活用していく。	【H31目標値】 小学校　80% 中学校　70%	
H28決算額　257　千円	H29当初予算額　288　千円	H29決算見込額　288　千円	

取組の状況と評価

達成状況

B

放課後学習支援者は30名で、2月末までに放課後学習を448回実施しました。

平成29年度全国学力・学習状況調査（平成29年4月実施）において、指標に挙げている項目では、小学校における肯定的回答は+5.6ポイントの上昇、中学校における肯定的回答は、+0.6ポイントの上昇でした。

同じ項目の全国値の推移は小学校が+2.3ポイントの上昇、中学校が+3.1ポイントの上昇でした。

平成28年度から29年度にかけての上昇率を全国値と比べると、小学校の上昇率は高くなっていますが、中学校の上昇率は低くなっています。原因の一つには、平成29年度の放課後学習支援事業の実施校が中学校では1校であり、活用率が低いことが考えられます。

全国値の上昇割合と比較すると、吹田市においては小学校では全国値+3.3ポイント、中学校においては-2.5ポイントであり、平均すると全国上昇割合をわずかに上回っており、概ね自分で計画を立てて勉強している様子がうかがえます。

○「自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童・生徒の割合の比較

	小学校			中学校		
	平成28年度	平成29年度	推移	平成28年度	平成29年度	推移
吹田市	55.8%	61.4%	＋5.6	49.5%	50.1%	＋0.6
全国	62.2%	64.5%	＋2.3	48.4%	51.5%	＋3.1

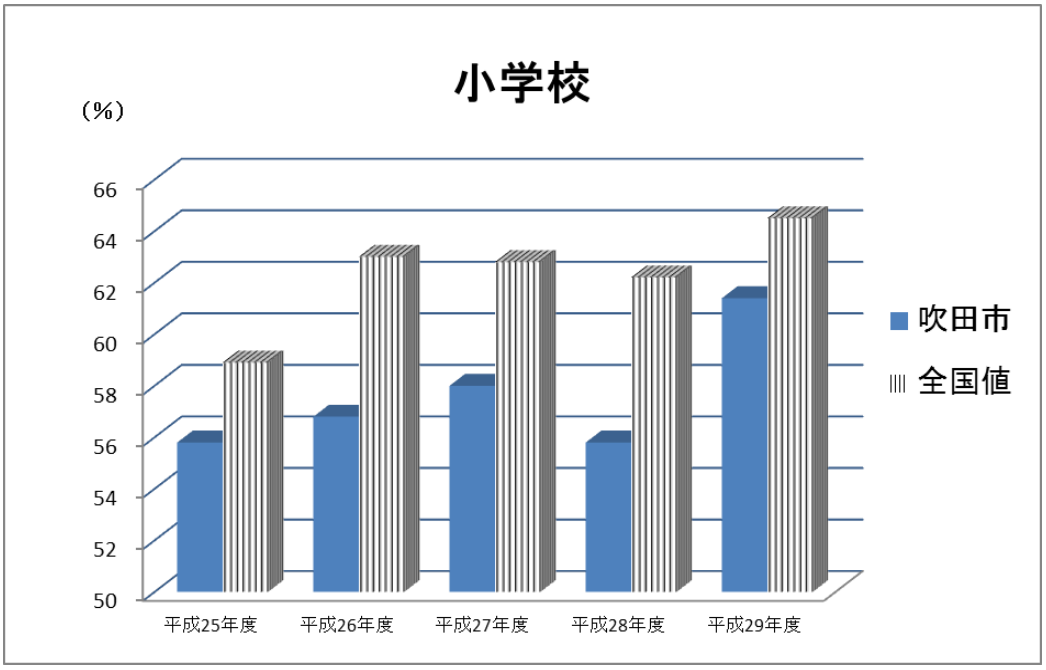
今後の課題・方針

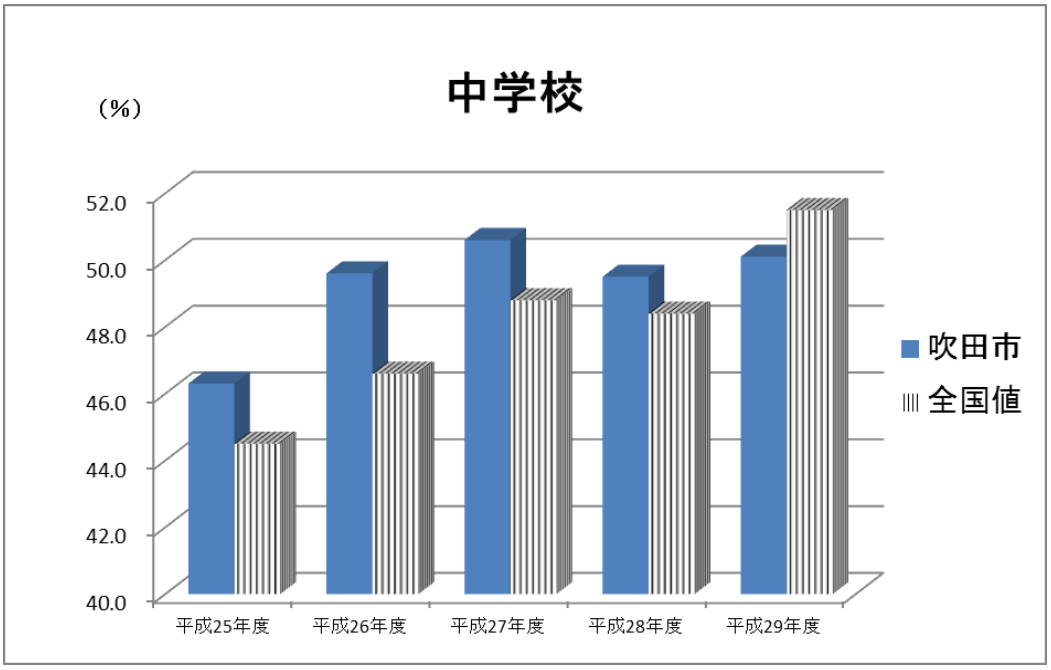
今後の活用校を増やすことが重要であることから、実施要項を年度当初に周知するとともに、年度途中からでも実施できるよう、積極的な活用を促していきます。また一方で学習支援者の不足が課題としてあることから、引き続き市報や市ホームページによる広報活動のほか大学との連携を図り、登録者を増やすよう努めます。

○「自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童・生徒の割合

単位：%

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	吹田市	55.8	56.8	58.0	55.8	61.4
	全国値	58.9	63.0	62.8	62.2	64.5
中学校	吹田市	46.3	49.6	50.6	49.5	50.1
	全国値	44.5	46.6	48.8	48.4	51.5





平成29年度　重点項目

5　今日的課題に対応した教育の推進

本市では今日的課題に対応するため、情報教育、環境教育、福祉教育、防災教育等、様々な教育活動に取り組んでいます。特にグローバル化が進む社会の中で活躍できる国際性豊かな子どもの育成を図ることが重要です。*英語指導助手を全ての小中学校に派遣するとともに、体験活動を通して、自然に英語でコミュニケーションをとることができるようにするなど、小学校外国語活動、中学校英語教育の充実を図ります。さらに、小学校1年生から授業の中で英語に慣れ親しむ活動ができるよう、平成29年度（2017年度）に新たに11校を*教育課程特例校に位置づけ、全ての小学校へ拡充します。

また、教職員1人に1台のパソコンを配備し、情報教育機器の更新や、*ICT支援員を配置することにより、教職員の情報リテラシの向上を図り、わかりやすい授業を展開することで、情報教育の質を高め、児童･生徒の更なる学びの充実を図ります。

さらに、「読書センター」及び「学習・情報センター」として学校図書館を活用した教育を充実させるとともに、*読書活動支援者の配置等、学校における読書活動推進体制づくりを進めます。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標１　総合的人間力の形成

基本方向２　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します

施　　策９　今日的課題に対応した教育の推進

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】英語教育推進事業		【担当課】指導室	
英語教育の充実を図るとともに、*国際理解教育を推進するため、様々な国の文化をもつ英語指導助手を中学校に配置します。また、小学校5･6年生に英語指導助手を配置し、英語に慣れ親しむことや積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をねらいとした外国語活動を行います。		【H29実績】 49%	達成状況 B
【指標】 英検3級程度の英語力を有する中学校3年生の割合	【考え方】 児童･生徒の英語力の向上を図る。	【H31目標値】 70%	
H28決算額 54,516 千円	H29当初予算額 67,527 千円	H29決算見込額 66,876 千円	

【事業名】英語コミュニケーション体験事業		【担当課】指導室	
小学校4年生を対象に「*すいたえいごkids」で、英語だけの世界を楽しみながら、必然的に英語に触れる体験活動を行うことで、英語入門期の児童が英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を図ります。		【H29実績】 96%	達成状況 A
【指標】 目標を達成したと自己評価した児童数／参加児童数	【考え方】 参加児童が英語を使うことへの意欲関心を持つ。	【H31目標値】 100%	
H28決算額 692 千円	H29当初予算額 348 千円	H29決算見込額 346 千円	

【事業名】小学校英語マスター事業		【担当課】指導室	
小学校6年生全児童を対象に、エキスポシティ内にある「OSAKA ENGLISH VILLAGE」で、英語を使用して様々なプログラムの体験等、実践的な学習を行い、児童に自ら小学校外国語活動の中で学んだことが活用できたと実感を持たせ、中学校における英語学習への動機づけとなるように図ります。		【H29実績】 92%	達成状況 A
【指標】 目標を達成したと自己評価した児童数／6年生全児童数	【考え方】 全ての児童が英語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。	【H31目標値】 100%	
H28決算額 6,080 千円	H29当初予算額 6,023 千円	H29決算見込額 6,023 千円	

【事業名】小学校情報教育機器整備事業		【担当課】教育センター	
授業において教員が情報教育機器を活用することにより、わかりやすい授業を実施し、児童の学習理解を深めます。		【H29実績】 70%	達成状況 B
【指標】 各小学校に配備しているプロジェクタ及び無線LANのアクセスポイントの稼働率	【考え方】 情報教育機器を有効活用し、わかりやすい授業を展開する。	【H31目標値】 100%	
H28決算額 151,073 千円	H29当初予算額 151,890 千円	H29決算見込額 151,045 千円	

【事業名】中学校情報教育機器整備事業		【担当課】教育センター	
授業において教員が情報教育機器を活用することにより、わかりやすい授業を実施し、生徒の学習理解を深めます。		【H29実績】 78%	達成状況 B
【指標】 各中学校に配備しているプロジェクタ及び無線LANのアクセスポイントの稼働率	【考え方】 情報教育機器を有効活用し、わかりやすい授業を展開する。	【H31目標値】 100%	
H28決算額 69,104 千円	H29当初予算額 71,829 千円	H29決算見込額 71,454 千円	

【事業名】学校教育情報通信ネットワーク構築事業		【担当課】教育センター	
ICT支援員を配置することにより、教員の情報リテラシの向上を図り、授業力を向上します。		【H29実績】 93%	達成状況 A
【指標】 授業中にICT機器を活用し、指導することができる教員の割合	【考え方】 すべての教員がICT機器を活用して指導する能力の習得を図る。	【H31目標値】 100%	
H28決算額 23,172 千円	H29当初予算額 170,814 千円	H29決算見込額 133,682 千円	

【事業名】読書活動支援者配置事業		【担当課】指導室	
小・中学校に読書活動支援者を配置し、学校図書館の充実を図るとともに、児童・生徒の豊かで幅広い読書活動を支援します。		【H29実績】 小学校 32.4冊 中学校 3.9冊	達成状況 B
【指標】 一人当たりの年間図書貸し出し冊数 （平成27年度 小学校27.5冊、中学校4冊）	【考え方】 学校図書館を有効活用し、図書貸し出し冊数の増加を図る。	【H31目標値】 小学校 40冊 中学校 8冊	
H28決算額 61,518 千円	H29当初予算額 61,564 千円	H29決算見込額 53,574 千円	

取組の状況と評価

達成状況

B

「グローバル社会を生きぬくコミュニケーション力の育成」に向けた英語コミュニケーション体験事業「すいたえいごkids」を小学校4年生対象に、OSAKA ENGLISH VILLAGEを活用した「*すいたえいごWeek」を小学校6年生対象に実施し、英語コミュニケーションの楽しさを十分に味わうことができるよう活動内容の充実を図っています。なお、平成29年度からは全ての小学校が文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、1年生から外国語活動を実施しています。全小・中学校に英語指導助手を派遣し、直接英語の音声や外国の文化にふれる機会の充実を図り、違いを認め、互いに尊重しあう態度の育成に努めました。

子供たちの豊かで幅広い読書活動を推進することを目的として、各小・中学校に読書活動支援者を配置することで、児童・生徒の読書機会や読書量が増え、読書への関心が高まりました。2学期より小学校において2名増員配置したことで、小学校での専任配置校が増え、児童・生徒のニーズに応じた計画的な図書館運営を図ることができました。しかし、読書活動支援者を十分確保できなかったことから、小学校での全校専任配置を実現できませんでした。また、貸出冊数は増加傾向にあるものの目標達成には至っていないため、来年度は目標達成に向けた具体的な取組の検討が必要です。

さらに、平成30年1月に、教職員一人一台相当のパソコンや、プロジェクタ・無線ＬＡＮアクセスポイント等の情報教育機器を配備するとともに、ＩＣＴ支援員を各校に月2回程度配置し、教員が授業等に機器を活用できる環境づくりを行いました。引き続き配備された情報教育機器を、教職員が一層活用するように努めていきます。

今後の課題・方針

国際社会をたくましく生きぬく子供を育成するために、異なる文化・習慣を理解し、違いを認め合い、ともに生きる態度を培うとともに自分の考えや意思を日本語だけでなく、英語でも表現し、世界の様々な人たちとコミュニケーションを図ることができる基礎的な能力の育成が必要となります。今後も英語でのコミュニケーション体験や外国の文化にふれる体験活動等の充実に努めます。

読書活動支援者については、平成30年度は4月当初から全ての小学校において1校に1名を専任で配置し、中学校においては2校に1名を配置しています。今後も子供の学校図書館の活用の充実に努めます。

プロジェクタ・無線ＬＡＮアクセスポイント等の情報教育機器の利活用については、教育センター等から機器の利活用の事例を発信したり、ＩＣＴ支援員が各校にて積極的に研修等を開催したりすることで、機器やその機器にインストールされているソフトウェア等の操作方法、授業での具体的な活用方法、児童・生徒への教育的効果等を提供していきます。こうした取組を受け、教員のＩＴリテラシの向上を図り、教員が次期学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実現できるように支援していきます。

○平成29年度英語指導助手・読書活動支援者の配置人数

	英語指導助手		読書活動支援者
	非常勤職員	派遣	*臨時雇用員
小学校	10人	－	29人
中学校	－	18人	9人

すいたえいごkidsの様子

すいたえいごweekの様子

新しい情報教育機器を使った授業風景

平成29年度　重点項目

6　生徒指導の充実

いじめや暴力行為等の問題行動の発生、特別な支援を必要とする児童生徒数の増加、不登校の増加など学校現場を取り巻く環境は複雑・困難化するとともに、学校に求められる役割は拡大・多様化しています。いじめ・不登校、暴力行為等の未然防止や早期解決を図るために、*スクールソーシャルワーカーの配置を充実します。また、中学生の豊かな感性、よりよく生きていこうとする実践的態度を導く生徒会活動をさらに充実させ、自ら生きる力を育みます。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標1　総合的人間力の形成

基本方向2　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します

施　　策10　生徒指導の充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】子どもサポートチーム事業		【担当課】指導室	
いじめ・不登校・児童虐待等、個別課題を抱える児童・生徒へのケアや事案の未然防止、早期解決のため、社会福祉士等の資格を有するスクールソーシャルワーカーを含む子どもサポートチームを編制し、福祉の専門的な見地から助言を受けながら各学校の生徒指導体制を強化し、児童・生徒や家庭、学校への支援を行います。		【H29実績】 100%	達成状況 A
【指標】 課題が解決もしくは好転した児童・生徒の割合	【考え方】 全ての児童・生徒の課題が解決する。	【H31目標値】 100%	
H28決算額　30,161　千円	H29当初予算額　30,458　千円	H29決算見込額　30,458　千円	

【事業名】生徒指導推進事業		【担当課】指導室	
市内18校の中学校の代表による意見交流会を行い、主張大会を実施し各校の代表による発表を行っています。また、各中学校ブロックにおけるいじめ根絶に向けての取組発表やいじめ撲滅宣言を通して、児童・生徒の自主・自治活動によるいじめ撲滅に向けての取組を推進します。		【H29実績】 18校	達成状況 A
【指標】 生徒会活動、自治活動によるいじめ撲滅に向けた取組を進めている学校	【考え方】 学校における諸問題を生徒自らが発表するものであり、数値的指標は示すことができないため。	【H31目標値】 18校	
H28決算額　284　千円	H29当初予算額　317　千円	H29決算見込額　317　千円	

取組の状況と評価

達成状況

A

児童生徒の問題行動等に対応するために、ブロック全体で活用できるように中学校1ブロックに1名のスクールソーシャルワーカーを配置しました。関係機関との連携を図りながらケース会議を開催し、各校における生徒指導体制のサポートを行いました。

生徒会活動の充実を図り、吹田市中学校「中学生の主張」大会の中で、いじめ撲滅宣言を行いました。また、「いじめ根絶に向けての各校の取組」を第五中学校の生徒が代表となり紹介しました。

今後の課題・方針

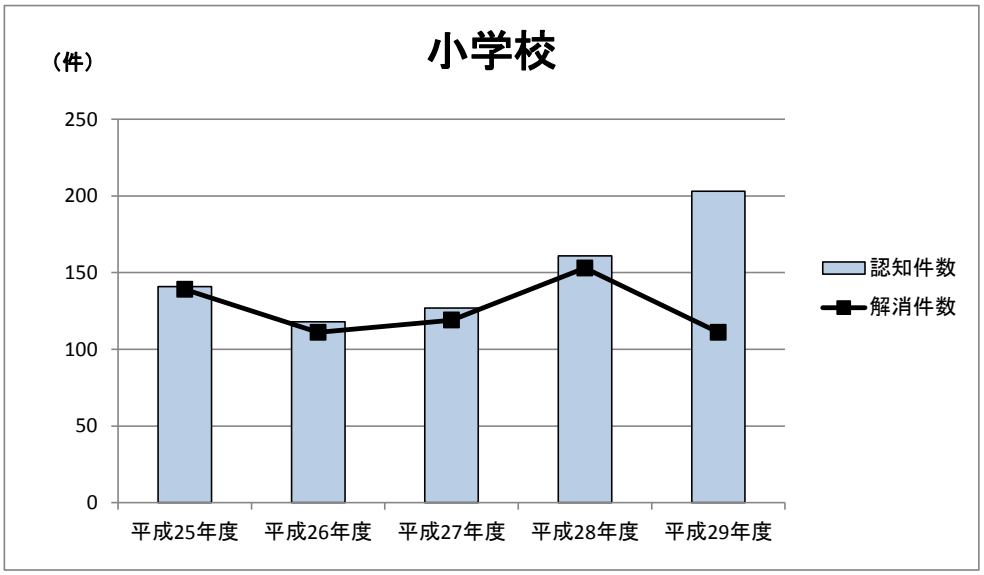
スクールソーシャルワーカーの配置を充実させ、支援の必要な児童生徒の見立てをより多く行うとともに教職員と情報共有を行い、適切な支援を行っていきます。

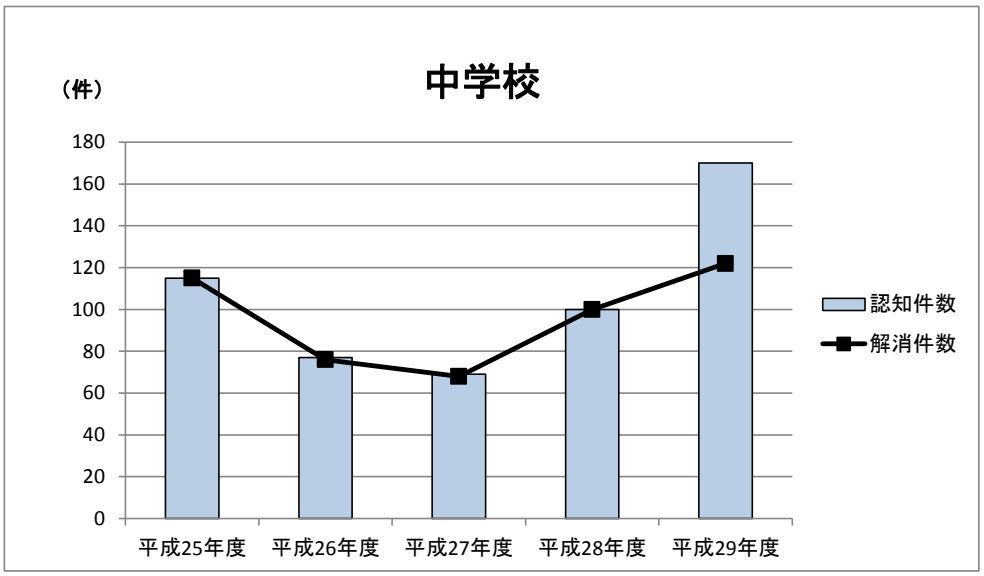
各校で作成している「いじめ防止基本方針」年間計画に沿った取組を進めるとともに、児童会・生徒会が中心となり、子供主体のいじめ撲滅の取組を行うことで、ＳＮＳのトラブルからいじめにつながるケースの未然防止につながっていきます。今後も吹田市全体でいじめ撲滅の取組を共有することで、いじめを許さない風土の形成を図ります。

小・中学校における問題行動の推移

①小・中学校におけるいじめ認知件数及び解消率の推移

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	認知件数（件）	141	118	127	161	203
	解消率（%）	98.6	94.1	93.7	95.0	54.7
中学校	認知件数（件）	115	77	69	100	170
	解消率（%）	100.0	98.7	98.6	100.0	71.8





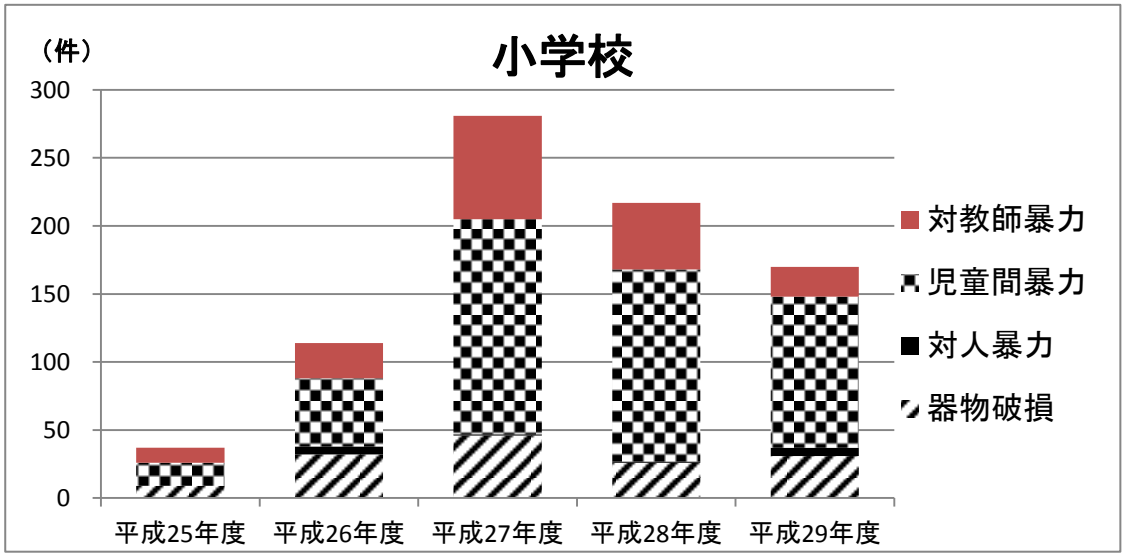
グラフの解説

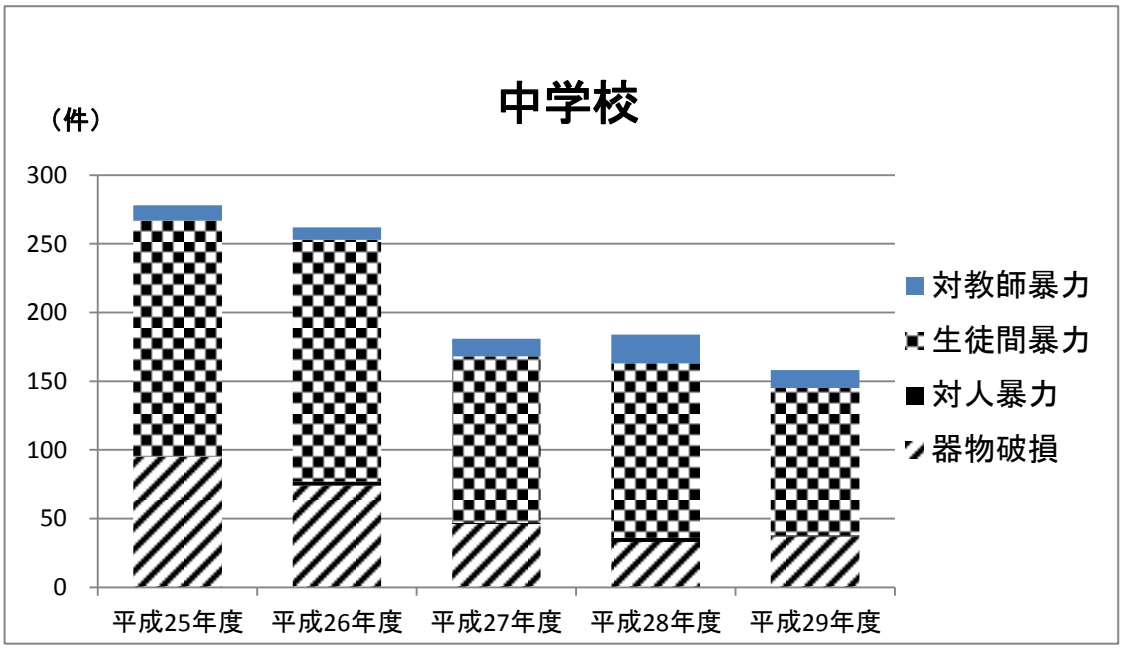
〈認知件数について〉
　いじめの認知件数が増加傾向にあるのは、いじめ防止対策推進法の施行（平成２５年度）に伴い、いじめの定義の変更がされたことで、各校がいじめの積極的認知、早期発見、早期対応を行っていることが要因である。（全国的にもいじめの認知件数は増加傾向。）
〈解消率について〉
　平成２９年度から、いじめが「解消している」という状態については、少なくとも次の２つの要件が満たされている必要があると定義された。①いじめに係る行為が止んでいること。（被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為が止んでいる状態が相当の期間継続していること。相当の期間とは、少なくとも3か月を目安。）②被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと。
そのため、いじめが「解消している」と判断するには少なくとも3か月以上の見守り期間が必要となり、３月末時点で、昨年度と比較して解消率が低くなる要因となっている。その後、平成３０年度１学期末現在で小学校100%、中学校98%解消している。

②小・中学校における暴力行為発生件数の推移

単位：件

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	総数	37	114	281	217	170
	対教師暴力	11	26	76	49	22
	児童間暴力	17	50	158	141	111
	対人暴力	0	6	1	1	6
	器物破損	9	32	46	26	31
中学校	総数	278	262	181	184	158
	対教師暴力	11	9	13	21	13
	生徒間暴力	172	176	121	127	107
	対人暴力	0	3	1	3	1
	器物破損	95	74	46	33	37

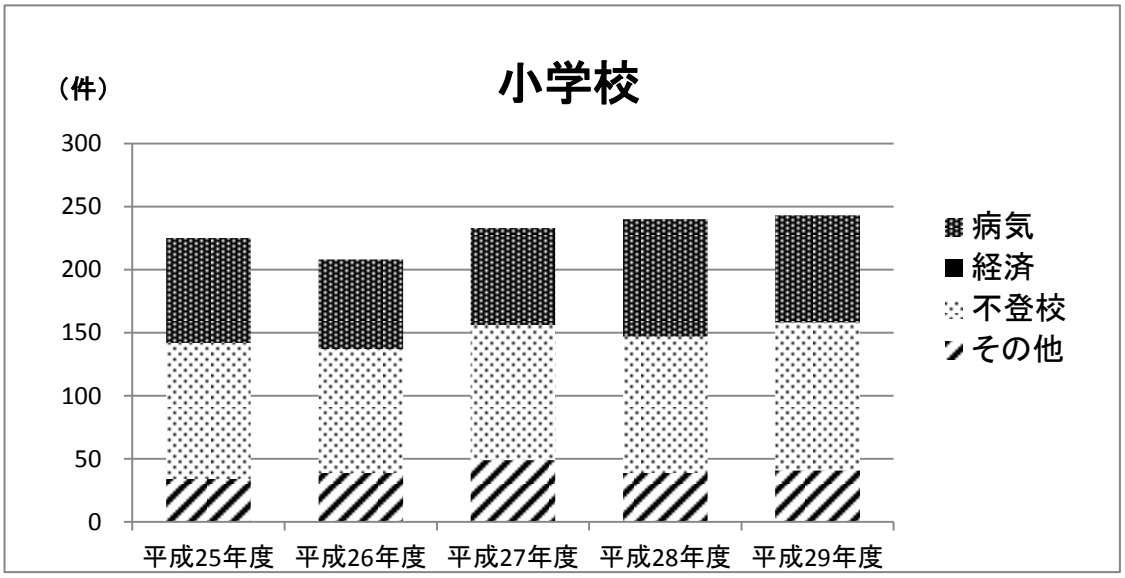


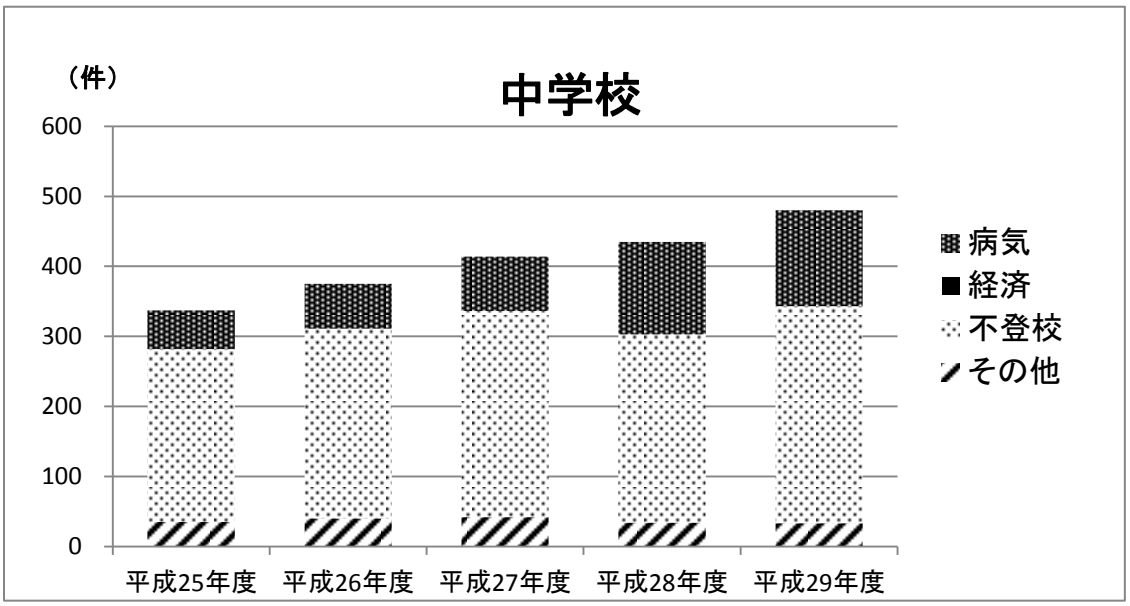


③小・中学校における長期欠席児童生徒数の推移

単位：件

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	総数	225	208	233	240	244
	病気	83	71	77	93	85
	経済	0	0	0	0	0
	不登校	108	98	107	108	117
	その他	34	39	49	39	41
中学校	総数	337	375	414	435	480
	病気	55	64	78	132	137
	経済	0	0	0	0	0
	不登校	247	271	294	269	310
	その他	35	40	42	34	33





平成29年度　重点項目

7　特別支援教育の充実

平成28年度に障害者差別解消法が施行され、学校でも*基礎的環境整備の推進及び*合理的配慮の提供が求められています。児童・生徒一人ひとりに応じた適切な特別支援教育を行うために、支援学級・通級指導教室を設置するとともに、「*個別の教育支援計画」及び「*個別の指導計画」を作成・活用することで、「ともに学び、ともに育つ」教育課程の編成・実施を推進します。

また、学習障がい（LD）、注意欠陥・多動性障がい（ADHD）、自閉症スペクトラム（ASD）などの特別な教育的支援を必要とする園児・児童・生徒の早期発見と対応を図ります。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標1　総合的人間力の形成

基本方向2　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します

施　　策13　特別支援教育の充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】障がい児介助員配置事業		【担当課】指導室	
教育上配慮を要する児童・生徒が在籍する学校に、障がい児介助員を配置することで、児童・生徒の生活介助や安全確保にあたります。		【H29実績】 3.47	達成状況
【指標】 支援学級在籍児童・生徒数／配慮を要する児童・生徒に関わる教職員数（平成28年度 3.56人）	【考え方】 支援学級在籍児童・生徒を指導する教職員数を増やし、児童・生徒の安全を確保する。 3.5人の数値設定は、支援学校の一人あたり平均値に準ずる。	【H31目標値】 3.5人	A
H28決算額　241,517　千円	H29当初予算額　245,138　千円	H29決算見込額　241,312　千円	

【事業名】市立小中学校医療的ケア体制整備推進事業		【担当課】指導室	
医療的ケアを要する児童・生徒が在籍する学校に看護師資格を有する介助員を配置し、安全な学校生活と学習活動を保障します。		【H29実績】 100%	達成状況
【指標】 看護師資格を有する介助員数／医療的ケアを要する児童・生徒数	【考え方】 医療的ケアを要する全ての児童・生徒に看護師資格を有する介助員を配置する。 平成29年度、医療的ケアの必要な児童・生徒に適切に看護師を配置した。	【H31目標値】 100%	A
H28決算額　24,535　千円	H29当初予算額　26,726　千円	H29決算見込額　25,047　千円	

【事業名】支援学級支援事業		【担当課】指導室	
肢体不自由訓練・診察の実施、階段昇降機の配置、就学指導等の支援学級在籍の児童・生徒等を支援します。		【H29実績】 69%	達成状況
【指標】 学習環境の整備率	【考え方】 支援学級在籍児童・生徒の教育的ニーズに応じた支援教育を図る。 平成29年度、*WISCⅣの購入できず。その他備品については、計画に沿って要求はしているが、現段階での児童生徒への学習環境への影響はない。	【H31目標値】 100%	B
H28決算額　10,767　千円	H29当初予算額　10,636　千円	H29決算見込額　10,636　千円	

【事業名】特別支援教育推進事業		【担当課】教育センター	
*発達相談員を活用した巡回相談を行ったり、研修を通して、教職員・保護者への理解・啓発を図ることによって、学校・園が特別な教育的支援を必要とする子供を早期発見し、生活面や行動面での二次障がいを防止しながら、有効な手立てを検討するようなシステム作りや、子供の特性に応じた教育活動の支援を行います。		【H29実績】 288回	達成状況
【指標】 巡回相談訪問回数	【考え方】 週あたり9回の学校訪問を35週間実施	【H31目標値】 315回	A
H28決算額　6,500　千円	H29当初予算額　8,310　千円	H29決算見込額　7,367　千円	

取組の状況と評価

達成状況

A

「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、「ともに学び、ともに育つ」の教育課程を編成し、実施しました。

障害者差別解消法が施行されたことを受け、管理職及び特別支援教育担当者に対しての研修等を行い、児童・生徒一人ひとりに応じた適切な特別支援教育が取り組まれるよう教職員の意識の向上を図りました。

教育上配慮を要する児童・生徒が在籍する学校に障がい児介助員を、また医療的ケアを要する児童・生徒が在籍する学校に看護師免許を有する介助員を配置し、安全な学校生活と学習活動の保障に努めました。

専門員が学校支援として巡回相談を実施するとともに、全小学校1年生を対象とした巡回を1学期から実施し、特別な教育的支援を必要とする児童の早期発見・早期対応に、学校と連携して取り組みました。特別支援教育研修では、「個別の指導計画の作成について」等のテーマで実施し、教職員の特別支援教育への理解・啓発に取り組みました。

今後の課題・方針

学校で直接児童・生徒の状況を把握し、また就学前の園児の状況も早期に把握することで、基礎的環境整備を計画的に進めていきます。今後とも、「ともに学び、ともに育つ」の教育の理念のもと、特別支援教育の充実に向けて取り組んでいきます。

巡回相談や教職員や保護者を対象とした研修を通して、子供の特性に応じた教育活動の支援に取り組みます。また、小学校1年生全巡回の充実をはじめとし、特別な教育的支援を必要とする児童への早期支援につながるよう、学校支援に努めます。

〇平成29年度介助員・看護師の配置人数

	介助員		看護師
	非常勤職員	臨時雇用員	臨時雇用員
小学校	40人	32人	20人
中学校	7人	9人	2人

平成29年度　重点項目

8　生涯学習プログラムの充実

社会全体で解決しなければならない課題を学習することにより、ライフスタイルや価値観の多様化・複雑化した現代を生き抜く力を身に着けることが、生涯学習の重要な意義であるため、生涯学習関連施設では、相互の連携を図るとともに、すべての市民を対象とした幅広い学習の場及び機会の提供と、市民の多様な学習ニーズに応じた学習内容の充実を図ることで、市民の様々な生涯学習活動を支援します。

そのため、まなびの支援課では、「*第3次生涯学習（楽習）推進計画」の推進や、*生涯学習吹田市民大学特別講座等を歩いて行ける身近な学びの場である地区公民館との共催により展開する等、市民の学びを支援しています。また、夢と希望を広げる出会い事業を推進し、子どもたちが夢や希望を持ち、将来を考えるきっかけを提供しています。

図書館では、平成28年度より視覚障がい者など文字情報をそのまま利用できない市民に、*デイジー図書再生機の使い方を説明するとともに貸出をして利用してもらう取組を始めています。また、平成29年度より障がい者向けの郵送での図書貸出を実施します。

文化財保護課では、旧西尾家住宅の保存に努めるとともに、地域の歴史資料の収集や研究、埋蔵文化財等の調査を行い、文化財の保存、活用等を図っています。

今後、市民の様々な生涯学習活動を支援するため、「いつでも、どこでも、だれでも」生涯学習に取り組める環境を整えていきます。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標1　総合的人間力の形成

基本方向3　人生をより楽しく豊かに生きる生涯学習・生涯スポーツを進めます

施　　策15　生涯学習プログラムの充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】生涯学習吹田市民大学事業		【担当課】まなびの支援課	
「第3次生涯学習推進計画」に基づき、現代的な課題を学ぶ特別講座、市内の各大学との共催により行う大学連携講座をとおして、市民の学びを支援します。		【H29実績】530人	達成状況
【指標】生涯学習吹田市民大学特別講座の受講者数	【考え方】特別講座を地区公民館3館にて実施するものとし、5回連続講座を30名が受講した場合の受講者数。	【H31目標値】450人	A
H28決算額　1,338　千円	H29当初予算額　1,897　千円	H29決算見込額　1,500　千円	

【事業名】地区公民館事業		【担当課】まなびの支援課	
趣味や教養、現代的課題を学ぶ講座や、教育委員会内の専門的な知識を持った職員を活用して、気軽に行うことのできるストレッチ体操や図書、地域の歴史といった講座を展開し、歩いて行ける身近な学びの場である地区公民館でのさまざまな学びを提供していきます。		【H29実績】57,431人	達成状況
【指標】地区公民館主催講座の延べ受講者数	【考え方】年間開館日数のうち、3日に1度開催するとして、29館に1講座の定員である20人を乗じた数を基準として1%ずつ増加した場合の受講者数。	【H31目標値】59,113人	B
H28決算額　10,368　千円	H29当初予算額　10,757　千円	H29決算見込額　10,757　千円	

【事業名】夢と希望を広げる出会い事業		【担当課】まなびの支援課	
児童・生徒等が、吹田市にゆかりがあり優れた能力やキャリアを有し、様々な分野で活躍する方々と出会い、講演や実技指導などをとおして、夢や希望を持って努力することの大切さを学び、将来を考える機会を提供します。		【H29実績】6回	達成状況
【指標】夢と希望を広げる出会い事業の実施回数	【考え方】小・中学校の授業において年3回実施し、*地域教育協議会において年2回実施することを目標にした場合の実施回数。	【H31目標値】5回	A
H28決算額　120　千円	H29当初予算額　220　千円	H29決算見込額　137　千円	

【事業名】障がい者への対面朗読等サービス事業		【担当課】中央図書館	
障がい者サービス向上を図るために対面朗読の実施、録音図書の作成ならびに点字図書の作成を行います。		【H29実績】3,747タイトル	達成状況
【指標】録音図書所蔵タイトル数	【考え方】前年の所蔵タイトル+100タイトル	【H31目標値】3,800タイトル	A
H28決算額　1,795　千円	H29当初予算額　1,494　千円	H29決算見込額　1,520　千円	

【事業名】旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）保存活用事業		【担当課】文化財保護課	
歴史的・文化的に価値の高いものとして、建物が重要文化財、庭園が国登録記念物となっている同住宅の価値を損なわないよう適切に保存し、吹田市の歴史・文化及び文化財の大切さをよりよく伝えるため、一般公開を行います。また、その価値や味わいを活かしつつ、文化財を身近に感じられるような活用（茶会、講演会等）を行います。さらに、同住宅の耐震診断を実施し、今後、耐震対策や保存修理等について文化庁と協議を進めます。		【H29実績】 4,531人	達成状況 B
【指標】 過去5年間の旧西尾家住宅年間入場者数	【考え方】 国有の重要文化財であり、適切に保存し将来の世代へ伝える必要がある。よって、公開・活用にあたっては、保存にもたらす影響について認識した上で慎重に検討することが求められ、単純に目標数値を設定することにはなじまないが、過去5年間の平均入館者数を目標値とする。	【H31目標値】 8,034人	
H28決算額 31,984 千円	H29当初予算額 32,363 千円	H29決算見込額 32,449 千円	

【事業名】公開展示事業		【担当課】文化財保護課	
吹田の通史や千里丘陵の窯業生産をテーマとした常設展示に加え、特別展として春季特別展「田能村竹田」展、秋季特別展「北大阪の祭礼」展を開催します。また、自然と環境をテーマに市民参画をとり入れる夏季展示、むかしのくらしをテーマとした学校教育連携展示を実施します。		【H29実績】 34,448人	達成状況 A
【指標】 過去5年間の博物館年間入場者数	【考え方】 入館者は展示テーマによって左右されることが多く、数字のみでは評価できない側面があるが、評価の一部として数値化されたものが必要である。	【H31目標値】 31,963人	
H28決算額 10,857 千円	H29当初予算額 10,473 千円	H29決算見込額 9,529 千円	

【事業名】文化財保存啓発事業		【担当課】文化財保護課	
文化財調査の成果を報告にまとめ、文化財保護の啓発を推進するために文化財説明板を設置し、教育委員会で管理する史跡等の管理に努めるとともに、貴重な出土遺物の保存処理を行い、文化財の保存・活用・保護等の啓発を図ります。また、文化財の保存と活用を図るため、指定・登録文化財の所有者等に補助金を支出します。		【H29実績】 6件	達成状況 A
【指標】 補助金等の交付件数	【考え方】 文化財の補助金は文化財の保存のため、現状変更という私有財産権の制限を課すことに対する補償措置とされている。そのため案件に対して精査、金額の決定を行うものであり、件数による数値設定はなじまない。目標値は過去3年間の平均件数。	【H31目標値】 6件	
H28決算額 8,446 千円	H29当初予算額 8,671 千円	H29決算見込額 8,202 千円	

取組の状況と評価

達成状況

A

生涯学習吹田市民大学事業については、金融トラブルや介護についてなどの現代的課題を、身近な学びの場である地区公民館との共催で開催し、受講者から好評を得ました。

夢と希望を広げる出会い事業については、小学校において4回実施したほか、市立吹田サッカースタジアムにおいて文化スポーツ推進室との共催で、ガンバ大阪や危機管理室の協力のもと、22校2,032名の小学生が受講し、ガンバ大阪のコーチの講演やフィールドでのサッカーパスを体験しました。さらに、本スタジアムが防災拠点となっていることから、段ボールベッドの組立等の講座も開設しました。それぞれの事業に参加した子供たちの感想からは、直接プロの技術を見たり、話を聴いたりしたことでたくさん学んだことがうかがえました。

図書館の障がい者への対面朗読等サービス事業では、8月から来館困難な障がい者向けに図書や雑誌の郵送貸出サービスを開始し、延べ69人に146冊の貸出を行いました。

文化財保護については、埋蔵文化財を始めとする各種文化財の調査を実施して調査報告書等の作成・発行するとともに、指定等文化財の保存・活用に努めるなど、文化財保護への啓発を行ってきました。国の重要文化財の旧西尾家住宅及び国の登録有形文化財の旧中西家住宅については建物に加え、庭園が国の登録記念物となるなど重要性が増しています。旧西尾家住宅については伝統文化の継承を目的とした、季節にちなんだしつらえや展示会・お茶会など、また旧中西家住宅については春季及び秋季の特別公開など、これら歴史的建造物を通して文化財への理解を深め催しを開催しました。

博物館については、学校教育との連携事業として、小学校では3年生社会科学習に対応した体験を重視する特別企画を、博物館ボランティアの参画により開催しました。また、中学校では中学校教諭と協議しながら吹田の歴史を学ぶ教材を刊行しました。その他、公民館・図書館との連携講座や講演会、体験学習等、数多くの教育普及事業を実施しました。地域連携の取組として北大阪ミュージアムネットワークによる北大阪ミュージアムメッセ、シンポジウムを実施しました。

今後の課題・方針

生涯学習吹田市民大学事業については、身近な場所で現代的課題を学ぶ機会を提供するため、引き続き地区公民館との連携を図っていきます。同時に市の健康や*幸齢社会をめざす施策との関連付けた事業展開が必要です。

夢と希望を広げる出会い事業については、学校のニーズに応じることができるよう、様々な講座プログラムを実施していきます。

図書館では、通所作業所等と連携し、図書館ツアーや施設に出向くなど、知的障がい者の図書館利用促進ついて努めていきます。

文化財保護については、これまで培ってきた吹田市内に点在する様々な文化財について調査並びに保存・活用を引き続き実施し、「建造物」及び「美術工芸」の調査、指定、保存、活用を図り、文化財保護に関する普及啓発活動を推進するとともに、これらを通じて市民の地域を愛する心や地域文化の醸成につなげます。このうち、旧西尾家住宅については建物の老朽化が進行しており、貴重な文化財を大規模災害による損害から防ぎ、これからも将来にわたって長く保存していくために、耐震診断を実施しました。その実施結果に基づいて耐震改修や修理を進めていく必要があります。

博物館については、市民参画や小中高校の児童・生徒の各成長段階に応じた学校教育との連携、地域との連携など、さまざまな連携事業に取り組み、より多くの市民が博物館活動に参加できるようにします。さらに「さわる展示」の常設化によって*ユニバーサルミュージアムの充実をはかり、市民の多様な生涯学習のニーズに応える支援を行います。また、西村公朝資料を収蔵し公開することで博物館の独自色・価値を高め、活性化をめざします。さらに、地域の歴史資料等を継続して調査研究、収集するとともに歴史、美術、自然・環境などをテーマに特別展、企画展を年6回開催し、地域の文化の再発見や見直しに努め継承していきます。

図書館ツアーの様子

館長ギャラリートークの様子

平成29年度　重点項目

9　青少年の仲間づくり・居場所づくりの推進

国の*放課後子ども総合プランでは、全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、こどもプラザ事業と留守家庭児童育成室事業を一体型として、同一小学校内で連携して進めることをめざしています。

本市では、既に全36小学校において両事業を一体型として実施しており、それぞれの事業が下記の目標を掲げながら、更に連携が深まるよう活動プログラムの充実等を図っていきます。

(1)こどもプラザ事業

小学校の施設や地域における学習資源等を活用し、平日の放課後等の子供たちの安心・安全な居場所を提供する「*太陽の広場」と、土曜日等に様々な体験活動の場となる「地域の学校」を通じて、子供の自主性、創造性等を育んでいます。今後も、地域の方々の協力を得ながら、ブロックアドバイザーによる巡回指導を充実し、開催回数の増加等全市的な拡充を進め、青少年の仲間づくり、居場所づくりの推進を図ります。

(2)留守家庭児童育成室事業

保護者の仕事等により、放課後に家庭で必要な保育を受けることが困難な児童を対象に、家庭に代わる居場所として小学校内に留守家庭児童育成室を設置しており、専任の指導員が保育を行うことにより、児童の安心・安全を確保し、その健全育成と保護者の働くことを支援しています。

平成29年度は、保護者ニーズを踏まえて策定した「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、対象学年を4年生まで拡大し、放課後における児童の居場所づくりを一層推進します。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標2　社会全体の教育力の向上

基本方向6　地域全体で教育力の向上を図ります

施　　策27　青少年の仲間づくり・居場所づくりの推進

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】こどもプラザ事業・こどもプラザ運営事業　　【担当課】青少年室

こどもプラザ事業では、小学校の施設や地域における学習資源等を活用し、平日放課後等の子どもたちの安心・安全な居場所を提供する「太陽の広場」と、土曜日等に様々な体験活動の場となる「地域の学校」を通じて、子どもの自主性、創造性などを育んでいます。 国の放課後子ども総合プランのめざす「太陽の広場」と「留守家庭児童育成室」を一体型として連携を進めます。		【H29実績】 全36小学校	達成状況 A
【指標】 太陽の広場の開催校	【考え方】 全小学校での実施をめざす。	【H31目標値】 全36小学校	
H28決算額　32,814　千円	H29当初予算額　36,588　千円	H29決算見込額　32,912　千円	

【事業名】留守家庭児童育成室事業・留守家庭児童育成室運営委託事業　　【担当課】放課後子ども育成課

児童福祉法に基づく放課後児童健全育成事業。専用区画で専任の指導員が児童の健全育成を図ります。 開室時間は、月曜日から金曜日の13時（学校休業期間は8時30分）から17時まで、延長保育は18時30分まで。第4土曜日の8時30分から17時まで。 保育料月額3,700円、延長保育料月額2,000円		【H29実績】 3,236人	達成状況 A
【指標】 入室児童数	【考え方】 保育を必要とする児童数の見込。	【H31目標値】 3,990人	
H28決算額　874,423　千円	H29当初予算額　1,107,136　千円	H29決算見込額　966,671　千円	

【事業名】留守家庭児童育成室管理事業　　【担当課】放課後子ども育成課

老朽化する育成室の改修や増加する児童を受入れるための施設の確保や整備を行います。		【H29実績】 0人	達成状況 A
【指標】 待機児童数	【考え方】 施設の確保・整備を行い、保育を必要とする児童を全て受入れる。	【H31目標値】 0人	
H28決算額　36,183　千円	H29当初予算額　64,272　千円	H29決算見込額　72,067　千円	

取組の状況と評価

達成状況

A

平成29年1月の「放課後子ども総合プラン」の進捗状況調査の結果では、平成28年3月末時点でのプランの目指す両事業の一体的な取組状況は、全国1,741市町村中356市町村という実施となっており、また、そのうち共通プログラムを実施する市町村は209市町村の状況にあります。

そのような中で、本市では平成29年度は全36小学校で国の目指す一体型として、太陽の広場と留守家庭児童育成室が連携しながら実施をしました。両事業の児童が参加できる新たな体験活動を提供する「活動プログラム」を32校、133講座実施しました。また、学校、見守りボランティア（フレンド）、青少年室、留守家庭児童育成室指導員による連絡会議の開催や、合同避難訓練の実施、留守家庭児童育成室のイベントへの協力・参加など更なる連携にも取り組みました。

留守家庭児童育成室では、入室児童数が増え続けており、プレハブ教室を設置するなど、施設確保を進めました。

また、課題となっている指導員不足を解消するため、運営業務委託を進めるなど、保育の提供体制確保を図りました。

今後の課題･方針

国の進捗状況調査の中では、一体的な取組を進める上での課題として、人材確保が困難、余裕教室がない、設備が不十分などが挙げられています。

本市では、こどもプラザ事業はスタートから10年を越え、成熟した制度として定着しつつありますが、児童が増加傾向にあり空き教室等の活動場所確保が困難であるため、雨天時は中止せざるを得ない状況の広場が多くあります。

また、児童数の多い大規模校では、参加児童が200名以上あり見守りボランティア（フレンド）の確保が難しいこと、様々な体験活動を提供する「活動プログラム」は、少しずつ全校に広がってきていますが、地域の指導者の発掘等の課題があります。更に不審者の出現やボランティアの交代による一時的な休止などもあり、ブロックアドバイザーによる巡回指導を充実し、全36小学校での実施が継続できるような支援も必要です。

こうした課題の解消に努めながら、「地域の子供は地域で守り育てる」取組として、学校・地域・家庭・行政の連携の下で安心・安全な子供の居場所づくりの充実を目指します。

留守家庭児童育成室では、平成29年度から対象学年を4年生まで拡大して児童を受入れましたが、5、6年生までの拡大については、保育内容や受入体制の確保方策を総合的に検討した上で進める必要があります。

○こどもプラザ事業実施回数

年　　度	「太陽の広場」		「地域の学校」
	実施予定回数	実施回数	実施回数
平成27年度	1,909回	1,729回	392回
平成28年度	1,978回	1,823回	427回
平成29年度	1,975回	1,798回	424回

留守家庭児童育成室プログラムに太陽の広場が参加

「活動プログラム」七夕飾りづくりの様子

平成29年度　重点項目

10　青少年相談の充実

ひきこもり、ニート、不登校など、青少年が抱える問題が深刻化、複雑化する中で、社会とのつながりが希薄になった青少年やその家族が孤立することなく、いつでも相談できる体制を充実させていきます。

平成29年3月に*「社会的ひきこもり」吹田市ネットワーク会議をベースに、非行など、より幅広い問題に対応するため、子ども･若者育成支援推進法に基づく*吹田市子ども･若者支援地域協議会を設置し、関係機関の連携を更に強化し、訪問相談（アウトリーチ）による支援にも力を入れるなど、青少年に寄り添いながら、セーフティーネットの拡大に努めます。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標2　社会全体の教育力の向上

基本方向6　地域全体で教育力の向上を図ります

施　　策30　青少年相談の充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】青少年活動サポートプラザ青少年相談事業		【担当課】青少年室	
臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を有した専門相談員がひきこもりやニート、不登校、いじめなど様々な理由で社会との関係が希薄になった青少年とその家族に対し、相談をはじめ、居場所や家族会、グループワーク、各種講座などの支援事業を実施します。		【H29実績】 新規相談件数 167件	達成状況
【指標】 1年度における新規相談件数	【考え方】 ひとりでも多くの青少年の支援をめざしていく。	【H31目標値】 200件	A
H28決算額　32,436　千円	H29当初予算額　38,025　千円	H29決算見込額　35,705　千円	

取組の状況と評価

達成状況

A

平成28年度と比較し、平成29年度の青少年相談事業は、新規相談件数が167件となり、31.5%増加しました。「社会的ひきこもり」吹田市ネットワーク会議を母体に平成29年3月から新たに子ども・若者支援地域協議会を設置し、支援機関同士の連携の意識がさらに高まり、各機関が相互に積極的なＰＲを行ったことが件数増加につながったと考えています。

さらに、訪問相談（アウトリーチ）の拡充に向けて、内閣府の研修に職員を派遣するとともに、職員全員の研修を実施しました。

今後の課題･方針

青少年を取り巻く社会の日々の変化が、青少年の生きづらさを増大させ、ひきこもりやニートをはじめとする、青少年の社会参画の問題は今後も拡大し、深刻化していくと考えられます。

子ども・若者支援地域協議会においては、内閣府の「子供・若者支援地域ネットワーク強化推進事業」を利用し、公開講座をはじめ、先進都市視察、専門家によるスーパーバイズ（指導・監督・助言）を実施します。

また、今後も引き続き支援機関同士がスムーズに連携できるよう、子ども・若者総合相談センターとして積極的に支援機関や教育機関に出向くなどさらに交流を深め、情報交換やＰＲに努めます。

ぷらっとるーむ吹田(夢つながり未来館2階)のディスプレイ

平成29年度　重点項目

11　学校・園施設の整備

学校・園施設は、子どもたちの学習の場であり、安全で、快適に過ごせる施設の整備を計画的に進める必要があります。平成27年度（2015年度）に耐震化が完了したことから、引き続き施設の老朽化対策として、校舎大規模改造事業及び屋内運動場大規模改造事業を平成36年度（2024年度）まで、トイレ施設整備事業を平成32年度（2020年度）までの予定で実施し、施設の長寿命化や維持保全を図ります。平成29年度（2017年度）は、校舎大規模改造工事を小学校8校・中学校4校で、屋内運動場大規模改造工事を小学校3校・中学校2校で、トイレ施設整備工事を小学校8校・中学校3校で整備する予定としています。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標３　豊かな教育環境の創造

基本方向７　安心・安全で豊かな学校・園の教育環境を整備します

施　　策34　学校・園施設の整備

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】小・中学校校舎大規模改造事業		【担当課】資産経営室	
小・中学校校舎の大規模改造工事を実施します。		【H29実績】 12校	達成状況 A
【指標】 工事実施校の校数	【考え方】 年次計画に基づき整備を実施する。	【H31目標値】 24校	
H28決算額　1,045,843　千円	H29当初予算額　73,035　千円	H29決算見込額　2,172,289　千円	

【事業名】小・中学校屋内運動場大規模改造事業		【担当課】資産経営室	
小・中学校屋内運動場の大規模改造工事を実施します。		【H29実績】 5校	達成状況 A
【指標】 工事実施校の校数	【考え方】 年次計画に基づき整備を実施する。	【H31目標値】 20校	
H28決算額　716,427　千円	H29当初予算額　23,493　千円	H29決算見込額　991,160　千円	

【事業名】小・中学校トイレ施設整備事業		【担当課】資産経営室	
小・中学校のトイレ施設整備工事を実施します。		【H29実績】 11校	達成状況 A
【指標】 工事実施校の校数	【考え方】 年次計画に基づき整備を実施する。	【H31目標値】 43校	
H28決算額　841,622　千円	H29当初予算額　26,824　千円	H29決算見込額　885,824　千円	

取組の状況と評価

達成状況

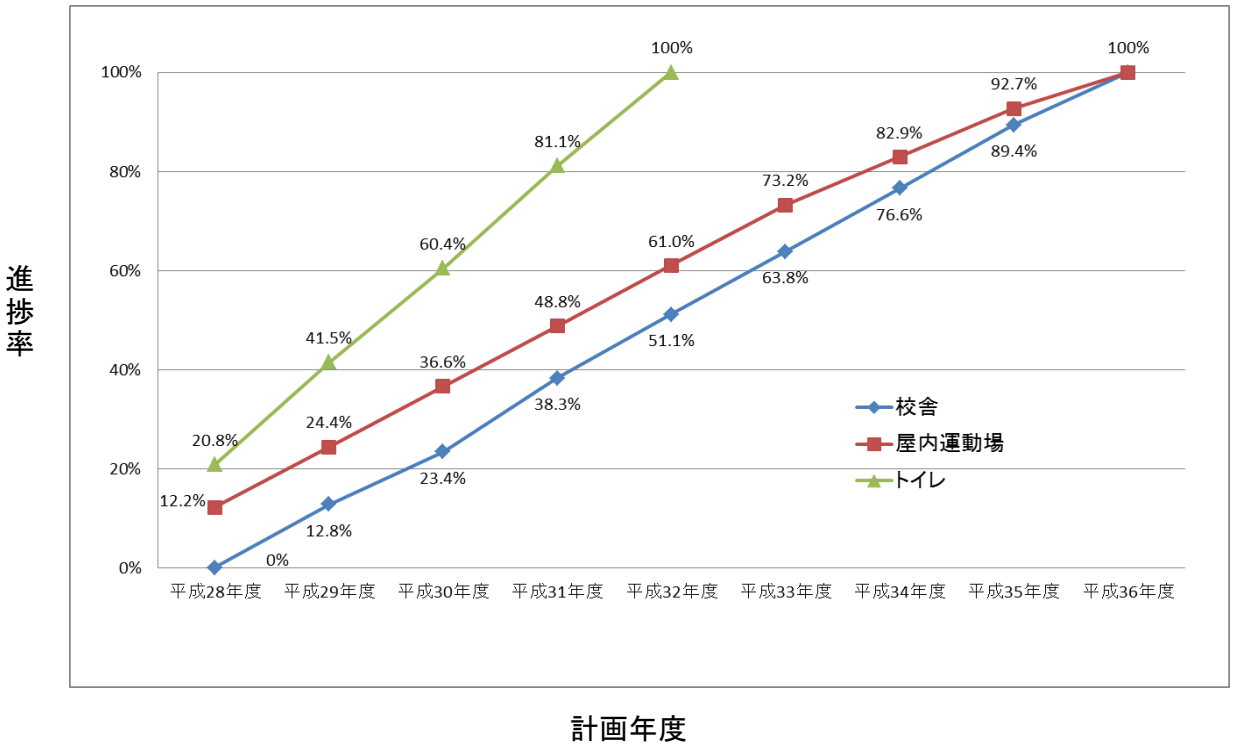
A

小・中学校の校舎大規模改造事業については、1期工事として小学校4校・中学校2校、2期工事として小学校4校、中学校2校、屋内運動場大規模改造事業については、小学校3校・中学校2校、トイレ施設整備事業については、小学校8校・中学校3校の工事を実施し、施設の長寿命化や機能の維持・向上に取り組みました。

今後の課題・方針

小・中学校の老朽化対策として、校舎大規模改造事業及び屋内運動場大規模改造事業を平成36年度まで、トイレ施設整備事業を平成32年度までの予定で計画的に進め、より安全で快適な教育環境の整備に引き続き取り組みます。平成30年度は、校舎大規模改造1期工事として小学校4校・中学校3校、2期工事として小学校4校・中学校1校、屋内運動場大規模改造工事を小学校3校・中学校2校、トイレリニューアル工事を小学校5校・中学校5校実施します。

○小・中学校校舎大規模改造工事、小・中学校屋内運動場大規模改造工事及び小・中学校トイレリニューアル工事の進捗予定



○年度ごとの実施校数

単位：校

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	合計
校舎大規模改造	0	6	5	7	6	6	6	6	5	47
屋内運動場大規模改造	5	5	5	5	5	5	4	4	3	41
トイレリニューアル	11	11	10	11	10	－	－	－	－	53

＊校舎大規模改造は1期・2期工事ともに完了した校数。

大規模改造後の校舎外壁・窓枠等

大規模改造後の体育館

リニューアル工事後のトイレ

平成29年度　重点項目

12　安心・安全の確保

小学校、幼稚園及び幼稚園型認定こども園の校園門に警備員等の配置を行い、子供たちの学校園生活の安全を確保します。

小学校は、学校課業日に警備員を配置し、夏季・冬季・春季の休業期間中は*(公社)シルバー人材センターによる受付員を配置、幼稚園及び幼稚園型認定こども園は、単独園2園に警備員を配置し、小学校に併設している14園に(公社)シルバー人材センターによる受付員を配置します。

今後も人の目による抑止力が重要であるとの考えの下、事業の継続を図ります。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標3　豊かな教育環境の創造

基本方向7　安心・安全で豊かな学校・園の教育環境を整備します

施　　策35　安心・安全の確保

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】小学校安全対策事業		【担当課】教育総務室	
小学校のより徹底した防犯体制の確立と子供たちの安全確保を目的に警備員等を配置し、校門付近を常時監視することで、来校者の受付とチェックを行い、不審者の侵入防止・抑制を図るとともに、緊急時の迅速な連絡体制のとれる安全対策業務を実施します。		【H29実績】 0件	達成状況
【指標】 学校内への不審者侵入件数	【考え方】 児童の学校内での安全を確保するため、引き続き警備員等を校門に配置する必要がある。	【H31目標値】 0件	A
H28決算額　63,179　千円	H29当初予算額　71,190　千円	H29決算見込額　76,970　千円	

【事業名】幼稚園安全対策事業		【担当課】教育総務室	
幼稚園及び幼稚園型認定こども園のより徹底した防犯体制の確立と子供たちの安全確保を目的に警備員等を配置し、園門付近を常時監視することで、来園者の受付とチェックを行い、不審者の侵入防止・抑制を図るとともに、緊急時の迅速な連絡体制のとれる安全対策業務を実施します。		【H29実績】 0件	達成状況
【指標】 幼稚園内への不審者侵入件数	【考え方】 園児の幼稚園内での安全を確保するため、引き続き受付員等を園門に配置する必要がある。	【H31目標値】 0件	A
H28決算額　12,286　千円	H29当初予算額　13,322　千円	H29決算見込額　13,053　千円	

取組の状況と評価

達成状況：A

子供たちの学校園生活での安全を確保することは最重要課題であり、不審者の侵入に対しては、人の目による抑止力が重要であるため、小学校の校門及び幼稚園の園門に警備員等を配置し、常時監視しました。その結果、小学校、幼稚園ともに不審者の侵入件数は0件で、安全確保を図ることができました。

今後の課題・方針

不審者の侵入に対する抑止効果が高いため、引き続き、小学校の校門及び幼稚園の園門に警備員等を配置し、校園門付近を常時監視することで、子供たちの学校園生活での安全確保に努めます。また、不審者の侵入が発生した場合は、速やかに学校園関係者に連絡する等、適切に処理します。

平成29年度　重点項目

13　学校・園運営体制の確立

児童の暴力行為の増加や特別な支援を必要とする児童数の増加など、複雑・困難化する小学校における学校現場に対し、人的支援を行うことにより、重大事案や緊急時の対応、及び多様化した課題を持つ児童に対するきめ細かな支援の充実を図り、落ち着いた学習環境の構築をめざします。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標3　豊かな教育環境の創造

基本方向8　信頼と責任のある学校・園づくりを進めます

施　　策40　学校・園運営体制の確立

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】小学校スタートアップ事業		【担当課】指導室	
幼稚園や保育所等から小学校への急激な学習・生活環境の変化の中でつまずきや戸惑いを見せたり、不適応行動をとり始めたりすることの多い小学校第1学年の児童に対して、「きめ細かな」指導を充実させ、スムーズな移行を図るとともに、虐待の兆候を早期に発見、対応することで問題解決につなげ、学習や生活をサポートするため、支援者の「*スターター」を配置します。		【H29実績】 86%	達成状況 A
【指標】 スターターの配置人数	【考え方】 小学校全校1名配置に加え、学校規模に応じて追加配置する。	【H31目標値】 学校規模に応じた配置	
H28決算額　26,849　千円	H29当初予算額　27,040　千円	H29決算見込額　27,039　千円	

【事業名】小規模校支援事業		【担当課】指導室	
12学級以下の小学校の場合、学級担任以外の教員数が1名と配置が少ないため、多様化した教育課題への対応や緊急時の対応が厳しく、また教員一人が担当する校務分掌が多くなるため、教員を加配することで学校力の低下が生じないよう支援します。		【H29実績】 100%	達成状況 A
【指標】 12学級以下の全小学校への1名の教員加配の割合	【考え方】 12学級以下の小学校に教員を加配する。	【H31目標値】 100%	
H28決算額　6,476　千円	H29当初予算額　9,001　千円	H29決算見込額　8,948　千円	

取組の状況と評価

達成状況：A

幼稚園や保育所等から就学し、小学校での急激な生活・学習環境の変化の中で、つまずきや戸惑いを見せることの多い小学校1年生に対して、スターターを4月の新学期から配置しました。スターターは学習面や生活指導面の補助を行い、遅れがちな児童へ個別指導による学力の向上等に寄与しました。

また、小学校小規模校2校に対して1校に1名の教員を加配し、生徒指導体制の充実を図りました。配置された学校では、生徒指導の主担として中学校ブロックでの合同会議等において情報共有に努めるとともに、生活アンケートの活用により、児童の実態を把握し、適切な指導を行いました。

今後の課題・方針

1学年5学級以上の規模の大きな学校についても十分な支援が可能となるように、スターターを活用した体制の充実を図ります。

また、12学級以下の規模の学校だけでなく、単学級の学年がある小規模の小学校に対しても教員を加配し、生徒指導の組織対応体制の充実を図ります。

平成29年度　重点項目

14　教育資料の提供と教職員研修の充実

最新の教育情報や教育実践資料等を収集するとともに、教育の今日的課題や吹田市の重点施策について調査・研究を推進し、成果等を発信することで学校での教育実践に生かします。また、教職員研修については、初任者や経験年数の少ない教職員が占める割合が増加する中、さまざまな教育課題や教職員の*キャリアステージ、ニーズに対応したもの等内容を一層充実させ、教職員の専門的知識・技能の習得、資質向上、指導力の向上を図り、円滑な学校経営の推進を図ります。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標3　豊かな教育環境の創造

基本方向8　信頼と責任のある学校・園づくりを進めます

施　　策41　教育資料の提供と教職員研修の充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】教職員研修事業		【担当課】教育センター	
さまざまな教育課題や教職員のキャリアステージ、ニーズに対応したもの等内容を一層充実させ、教職員の専門的知識・技能の習得、資質向上を図り、円滑な学校経営の推進を図ります。特に平成30年度から教科化される特別の教科道徳や次期学習指導要領に対応した研修の充実を推進します。		【H29実績】 5,614人	達成状況
【指標】 教職員研修延べ参加者数	【考え方】 教職員の自己研鑽意欲を高め、研修参加を促していく必要がある。	【H31目標値】 6,000人	A
H28決算額　3,599　千円	H29当初予算額　4,203　千円	H29決算見込額　4,159　千円	

【事業名】校内研修事業		【担当課】教育センター	
学校に講師を招いて研修を行うとともに、様々な専門の講習会・研修会に参加することで、教職員の自己教育力の高揚と指導力及び資質の向上を図ります。		【H29実績】 1,465人	達成状況
【指標】 校内研修会参加人数	【考え方】 校内研修会を活性化し、特色を生かした学校づくりを支援していく必要がある。	【H31目標値】 1,590人	A
H28決算額　1,205　千円	H29当初予算額　1,267　千円	H29決算見込額　1,267　千円	

【事業名】研究学校事業		【担当課】教育センター	
言語活動の充実や道徳教育の推進等の今日的教育課題や重点項目にかかわる研究を学校に委嘱し、教員の資質や学校体制のあり方を改善するとともに、児童・生徒の学力向上を図ります。さらに、研究成果を校外に発信し市全体の教育力を高めます。		【H29実績】 29回	達成状況
【指標】 委嘱研究校の公開授業回数	【考え方】 委嘱研究校における研究成果を発信し、全校が共有していく必要がある。	【H31目標値】 15回	A
H28決算額　501　千円	H29当初予算額　535　千円	H29決算見込額　535　千円	

【事業名】教育課題調査・研究推進事業		【担当課】教育センター	
学校園の教職員に研究員を委嘱し、教育に関する専門的、今日的課題等の調査・研究活動を行います。その中でも、発達理解、ICT活用、英語教育、道徳教育、校内研修活性化、不登校対応の6研究グループで調査・研究活動を進めます。調査・研究の成果を積極的に発信することで、各学校・園における教育実践力の向上と教育活動の充実・活性化を図ります。		【H29実績】 71回	達成状況
【指標】 研究グループ活動回数	【考え方】 教育課題への調査・研究を行うため、教職員に対する活動を活性化し、支援していく必要がある。	【H31目標値】 66回	A
H28決算額　2,314　千円	H29当初予算額　2,516　千円	H29決算見込額　2,516　千円	

【事業名】教育研究大会事業		【担当課】教育センター	
全ての教職員が、今日的課題や本市の重点施策について学び、今後の教育活動に活かすための相互理解の場とします。		【H29実績】 98%	達成状況 A
【指標】 大会実施の後アンケート結果から、学びが深まり、充実感を得た教職員の割合	【考え方】 参加者にとって学びが深まり充実感の高い研究大会を実施する必要がある。	【H31目標値】 100%	
H28決算額　162　千円	H29当初予算額　219　千円	H29決算見込額　219　千円	

取組の状況と評価

達成状況

A

研究紀要や各教科の授業指導案等の教育資料をホームページやSATSUKIネット（吹田市学校教育情報通信ネットワーク）「知恵の泉」に掲載することで全小･中学校に発信し、教員の授業力向上を支援しました。また、学校、園、教育センターの調査研究グループ等の研究成果の発信を行う「教育研究報告会」には12団体が発表し、220人の教職員が参加しました。

教職員研修は、教職員のキャリアステージや職務の専門性に応じた196講座を実施しました。小中一貫教育、英語（外国語）教育、授業力向上等の今日的課題に対応するとともに、人権教育等の普遍的課題に対応した研修を実施しました。経験年数の少ない教職員に対しては、ミドルリーダーに求められる資質・能力の育成を目指し、授業・学級づくりをはじめ、学校運営をテーマとした内容を設定しました。

受講者延べ5,614人の教職員を対象に実施した研修アンケートから、研修内容について、「とても良い」、「良い」という肯定的回答が98％を占めました。「職務に生かすことができる」という回答率も98％でした。教育研究大会のアンケートも同様で、全体的に肯定的な回答が多数を占めました。

今後の課題･方針

「主体的・対話的で深い学び」や「ICT機器の活用」、「道徳教育」などが盛り込まれる次期学習指導要領改訂を見据え、最新の教育実践資料等を収集するとともに、教育の今日的課題や本市の重点施策について調査・研究を推進し、成果等を発信することで学校での教育実践を支援します。

教職員研修については、初任者教員と学校組織の中核を担うミドルリーダーの育成を中心に、キャリアステージに応じた教職員研修等のさらなる充実を図ります。子供たちに総合的人間力、コミュニケーション力を育む教育を推進するための教職員を育成することで、学校組織としての教育力の向上と子供、保護者、地域から信頼される学校づくりの推進を目指します。

教育研究大会については、今後も本市の今日的な教育課題に応じた講師を招聘し、教職員の資質向上に努めていきます。

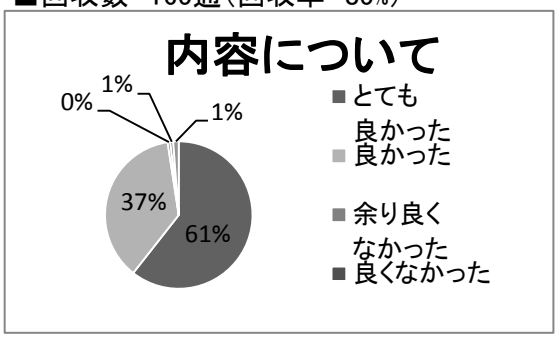
〔研究大会について〕

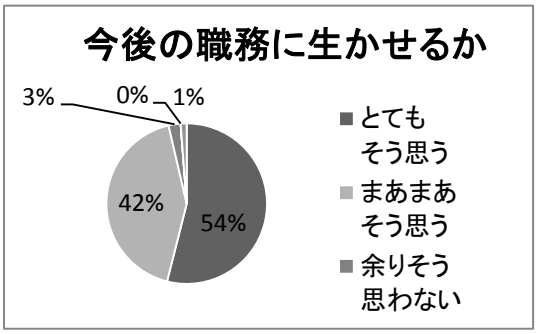
1　教育研究大会参加者　194人

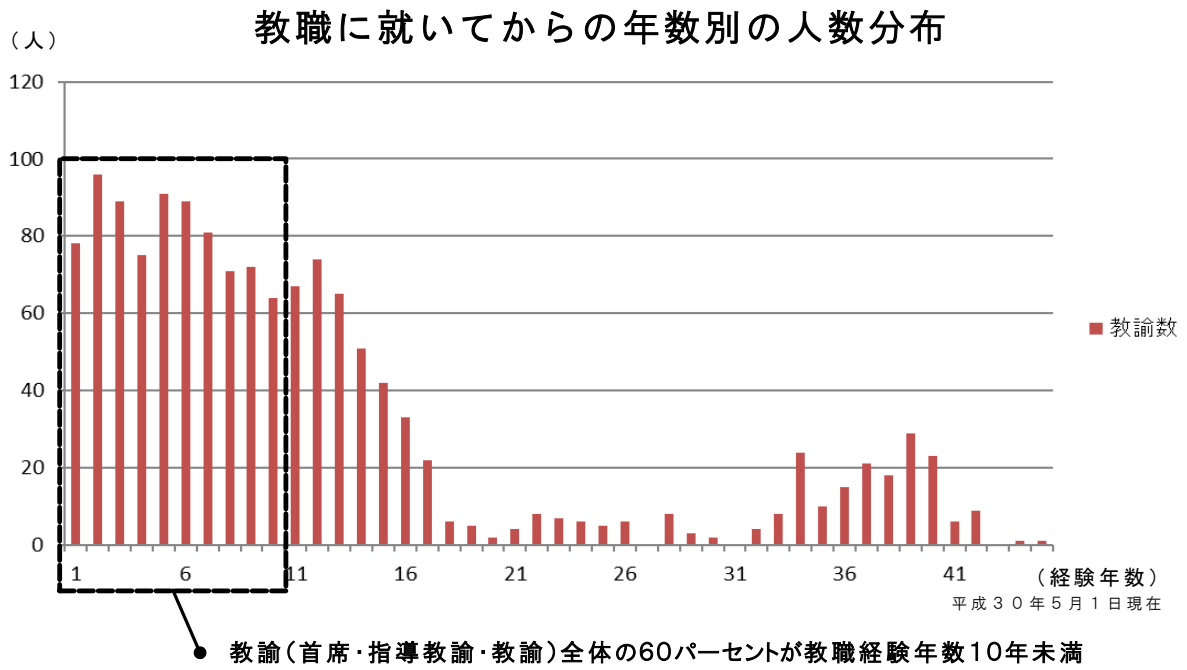
	幼稚園	小学校	中学校	合計
人数	17	122	55	194

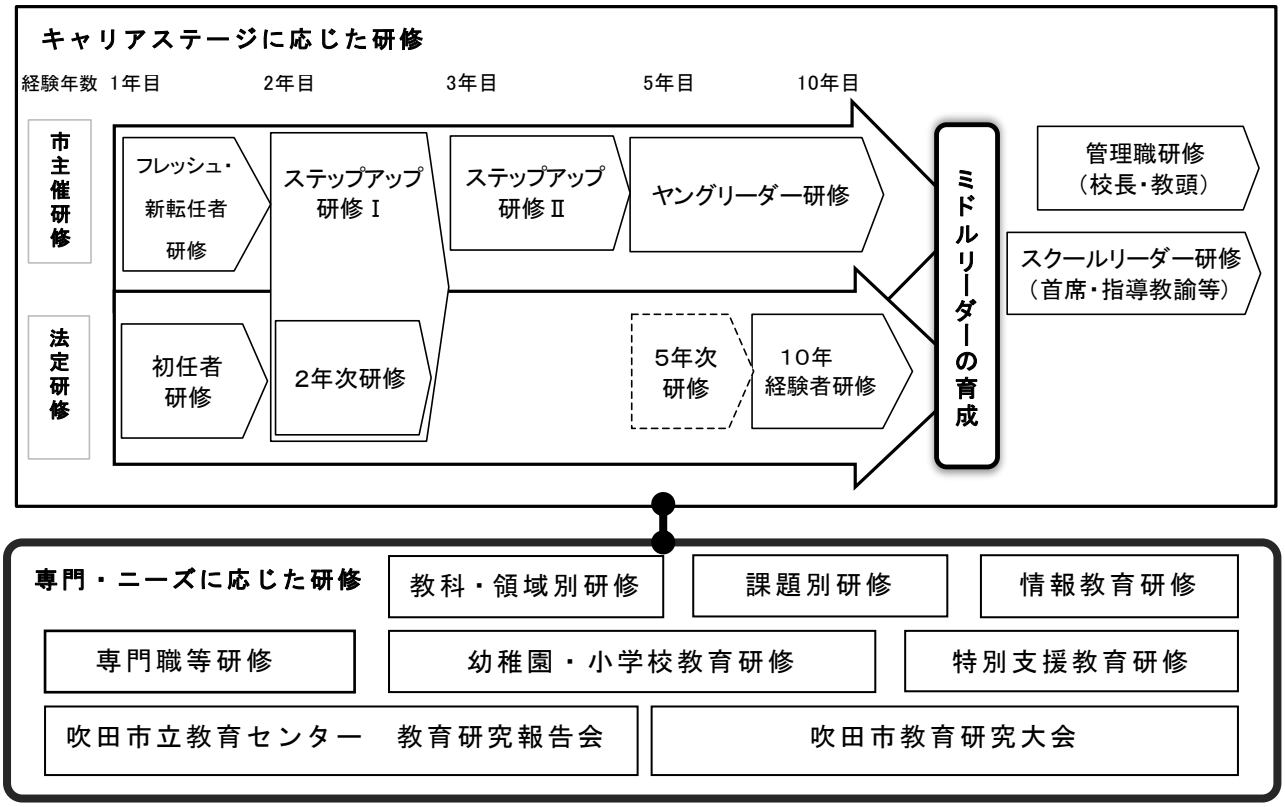
2　アンケートについて

■回収数　165通（回収率　85%）









本市では、ベテランといわれる教職員層の激減と経験年数の少ない教職員の増加による大きな世代交代という状況の中で、次期リーダー層の早期育成が課題となっています。教育センターでは、法定研修に加え、若手育成に重点をおいたキャリアステージに応じた研修を実施しています。

加えて、教職員の専門性や本市の教育課題に応じた研修を実施することで、各校における教育力の向上を支援し、子供たちの総合的人間力・コミュニケーション力を育む教育を推進しています。

平成29年度　重点項目

15　生涯学習施設の整備・充実

老朽化した施設の整備や、更新を行うことにより生涯学習施設の充実を図るため、狭隘で老朽化した公民館の大規模改修工事等を、毎年1館実施します。また、図書館では、（仮称）健都ライブラリーの整備が開始し、広域利用についても平成29年度の拡大にむけ協議を進めています。

今後、図書館については、岸部地域に図書館を整備することで市内の図書館空白地域を解消し、隣接する自治体との広域利用の範囲を拡大して、図書館不便地域の解消に努めます。また、生涯学習施設については、機能を充実させ、各施設の持つ機能や立地条件などを活かした教育施設の体系化を図ります。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標3　豊かな教育環境の創造

基本方向9　生涯学習・生涯スポーツ環境の整備を進めます

施　　策43　生涯学習施設の整備・充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】地区公民館の改修		【担当課】まなびの支援課	
地区公民館の老朽化に伴い、年次的に大規模改修工事等を実施します。		【H29実績】 1	達成状況 A
【指標】 改修件数	【考え方】 基本的に大規模改修については、1年間に1館が原則。	【H31目標値】 —	
H28決算額　158,437　千円	H29当初予算額　234,405　千円	H29決算見込額　112,521　千円	

【事業名】（仮称）健都ライブラリー整備事業		【担当課】中央図書館	
北大阪健康医療都市（健都）健康増進公園に市民が健康づくりに取り組み、多世代が交流できる機能を持たせた図書館を整備します。		【H29実績】 実施設計の開始	達成状況 A
【指標】 平成32年度秋に開館予定	【考え方】 図書館利用不便地域である岸部地区へ施設の整備を行う。市民の自発的な健康づくりを支援し健康寿命の延伸を図る。	【H31目標値】 建設工事の実施	
H28決算額　千円	H29当初予算額　107,179　千円	H29決算見込額　36,473　千円	

【事業名】図書館の広域連携（相互利用）事業		【担当課】中央図書館	
隣接する市の市民が、それぞれの市の図書館を相互に利用できるよう各市との間で協定を結びます。		【H29実績】 大阪市民への貸出及び北摂7市3町	達成状況 A
【指標】 広域連携参加市数	【考え方】 隣接する各市と協定を結び、図書館利用不便地区の解消に努める。	【H31目標値】 大阪市民への貸出の拡充	
H28決算額　187　千円	H29当初予算額　346　千円	H29決算見込額　350　千円	

取組の状況と評価

達成状況

A

地区公民館の改修事業では、南吹田地区公民館の移転建替工事及び、山手地区公民館の移転建替のための実施設計を進めました。また、小規模改修工事として吹田東地区公民館の外壁補修、台風による損害があった北千里地区公民館のロビーガラス修繕等を行いました。

（仮称）健都ライブラリー整備事業では、建設工事に向けて実施設計を開始しました。

図書館の広域連携（相互利用）事業では、4月に北摂7市3町間で協定を締結し、7月から北摂7市3町のどの図書館からでも貸出ができる広域利用を開始しました。

今後の課題・方針

地区公民館の改修事業では、南吹田地区公民館の移転建替工事の完成を目指します。山手地区公民館については移転建替工事を進めていきます。また、吹六地区公民館について平成29年度の耐震診断の結果、耐震化が必要と判断しましたので速やかに耐震工事を行います。

（仮称）健都ライブラリー整備事業では、実施設計を完了させ、建設工事を開始する準備を進めます。

図書館の広域連携（相互利用）事業では、現在さんくす図書館で行っている大阪市民の利用を江坂図書館でも実施できるよう、大阪市との連携拡大の検討を進めます。

第 2　教育委員会の活動状況

1　教育委員会の役割

教育委員会は常勤の教育長とさまざまな分野で識見を有する 5 人の非常勤委員とで構成されています。

教育委員会の役割は、教育委員会規則の制定・改廃、教育機関の設置・廃止、職員の人事、活動の点検・評価、予算等に関する意見の申し出など、教育行政全般について自らが管理執行するところにあります。とりわけ、国際化、情報化、科学技術の進展等の社会の変化に伴い、教育のあり方が問われている中で、本市教育の基本的な方向について、教育委員会会議の場で合議し、最終的に決めるという非常に大切な役割を担っています。

2　教育長及び教育委員選任状況

教育長及び教育委員は、市長が議会の同意を得て任命します。教育長の任期は 3 年、教育委員の任期は 4 年です。また、教育長及び教育委員は、再任することができます。

平成 30 年 3 月 31 日現在の構成

氏　名	任　期
教育長 原田　勝（はらだ　まさる）	平成 29 年 12 月 24 日～平成 32 年 12 月 23 日
教育長職務代理者 谷口　学（たにぐち　まなぶ）	平成 26 年 3 月 30 日～平成 30 年 3 月 29 日 平成 30 年 3 月 30 日～平成 34 年 3 月 29 日
委員 大谷　佐知子（おおたに　さちこ）	平成 23 年 8 月 12 日～平成 27 年 8 月 11 日 平成 27 年 8 月 12 日～平成 31 年 8 月 11 日
委員 和泉　慎次（いずみ　しんじ）	平成 28 年 12 月 25 日～平成 32 年 12 月 24 日
委員 安達　友基子（あだち　ゆきこ）	平成 28 年 12 月 25 日～平成 32 年 12 月 24 日
委員 福田　知弘（ふくだ　ともひろ）	平成 29 年 3 月 29 日～平成 33 年 3 月 28 日

平成 29 年度中に退任した教育委員

前教育長 梶谷　尚義（かじたに　ひさよし）	平成 25 年 12 月 24 日～平成 29 年 12 月 23 日

3　平成 29 年度の教育長及び教育委員の活動状況

(1) 教育委員会会議

定例会を 12 回、臨時会を 3 回開催し、教育委員会の職員人事や審議会等の委員の委嘱・解嘱等を審議したほか、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、今後の本市の教育内容にどう活かしていくのかなど活発に議論しました。

	開催回数		付議案件数	
平成 29 年度	定例会	12	議　案	70
	臨時会	3	報　告	30
	計	15	その他	8
			計	108

(2) 総合教育会議

市長と教育委員会が、本市の教育の課題や方向性を共有して、連携を深めながら教育行政の推進を図るため、協議・調整を行っています。平成 29 年度は 2 回開催されました。

－主な項目－

・学校教育現場の支援について～中学校給食のあり方について～

・吹田市における各学校の特色づくりについて

(3) 教育委員（教育長を除く）の会議・行事視察等

ア　市議会関係

市議会本会議 20 回、文教市民常任委員会 5 回、予算常任委員会 3 回、予算常任委員会 3 回

イ　市主催事業の視察及び出席

吹田市成人祭、憲法と市民のつどい、人権フェスティバル、北摂 7 市新成人応援デー、自然体験交流センター視察、青少年クリエイティブセンター視察、子育て青少年拠点夢つながり未来館（ゆいぴあ）視察

ウ　学校園関係視察

市立小・中学校訪問　14 校、小中学校周年行事への出席　3 回、小学校給食試食会、吹田市教育研究大会、吹田市立教育センター教育研究報告会、吹田市中学校総合体育大会閉会式、適応指導教室「光の森」活動視察、すいたえいごkids視察、小学校英語マスター事業視察、米沢富美子こども科学賞審査会及び表彰式、吹田市中学校「中学生の主張」大会、幼保連携型認定こども園完成式、市立認定こども園視察　2 園、留守家庭児童育成室視察　1 校

エ　研修会等への参加・講演

三島地区教育委員協議会研修会・懇談会、校園長研修会、教頭研修会、保護者講演会、夢と希望を広げる出会い事業での講演

オ　その他

各種行事への出席　6 回

第3　学識経験者からの知見

学識経験者は、点検評価報告書の素案をもとに教育委員会にヒアリングを行うとともに、教育委員と本市の教育について様々な観点から、意見を交換しました。

1　重点項目について

(1) 学校教育

本報告書は予算がついているそれぞれの事業について、目標指標の設定があり、その実績に対する達成状況が記されているという報告書のスタイルを取っているが、指導教育行政としてのメッセージをもっと記述してもいいかと思う。「4　確かな学力の育成」では、本来は多くの取組がある中で、事業として予算があるものとして、放課後学習支援事業のみが挙げられている。同様に、「5　今日的課題に対応した教育の推進」では、英語教育、情報教育、読書活動に関する内容となっているが、今日的課題は他にもさまざまにある。事業があるなしに関わらず、もっといろいろな取組を記述すればよい。ミスリードが懸念される。

平成32年度の新学習指導要領本格実施により、道徳及び外国語の教科化等、対話や協働といった活動を取り入れるような学び方（「主体的・対話的で深い学び」）が大切になってくる。ますます授業力向上が望まれる。そういう大きな転換期であるので、子供たちにどのような力をつけるのか、学力向上、人間力、授業力等についての取組をもっと報告書に盛り込んでもいいのではないか。

子どもサポートチーム事業は大変よい取組である。このSSWをはじめとする、市独自の取組で配置している障がい児介助員、看護師、発達相談員、ICT 支援員など、市費によるものかどうか、どのような人材か、何のために、どのような活用をし、どのような配置をしているのかを明記するとよい。「いじめ認知件数及び解消率の推移」では、平成 29 年度のデータについて、分析内容も併せて示すことで、安心につながるメッセージとなる。

小学校スタートアップ事業は大阪府のスタートカリキュラムに先んじて実施しているということでニーズにマッチしており、さらに取組のアピールを行うとよい。

「14　教育資料の提供と教職員研修の充実」では、校内研修の活性化が重要な課題であり、教育センター研究グループが教区課題を調査・研究し、成果物を発信していく、そういった事業がまさに学校支援機能となっており、大変いいと思う。

「11　学校・園施設の整備」については、事業の推移も大変わかりやすく、さらに充実をめざしていただきたい。

(2) 青少年の健全育成及び生涯学習

市立図書館については、市内に多くの図書館があり、さらに新たな図書館の設置計画もあり、本市は大変充実している。学校教育では今後も言語活動の充実や表現力の育成、対話や受け止める力、調べてまとめる力が重要となっていく。ぜひ学校と図書

館司書との連携に努めていただき、また、子供たちが登録者となり、自分で本を借りる体験を通して、リピーターになる、そういう姿をめざしてほしい。他市との共同利用もよいことである。

留守家庭児童育成室における待機児童数0は素晴らしい。

青少年における訪問相談は画期的で評価したい。中学校での不登校が全国と比較し、少なくない中、卒業後の進路や居場所、受け皿としてその役割を期待する。

2　教育委員会の活動状況について

従前と比べ、コンパクトにまとめられている。教育現場はこれまで以上に保護者対応等様々に多忙の状況である。学校には54校中、14校訪問されたようだが、機会を増やされ、学校の実情や教員の息遣いなども感覚として触れていただいたらと思う。限られた時間で、目的を絞って、でよいかと思う。

3　報告書全体について

昨年度と比べ、「市民にとってよりわかりやすく」という視点で、表記の仕方やフォーマットについて、改良された。評価については、事業ごとに成されているので、重点項目としてまとめた評価はあえて必要ないのではないかと思う。数値での評価がむずかしいところもある。指導教育行政なので、文章表記でもよいかと思う。また、「…充実した」、「…進んだ」との結びをできるだけ具体的に根拠を挙げて述べるとよい。

新学習指導要領には、これまでの「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」のみならず、「学びに向かう力・人間性等」という柱が新しく盛り込まれ、「多様な他者との協働」をはじめとする総合的人間力、市民力というものが求められる。今後、本報告書にはそういった視点で指導教育行政としての考えを盛り組むことが必要と考える。教科となる道徳に関する施策は「7　心の教育の充実」にあたるかと考えるが、次年度に向け、重点項目も改めて検討していくことになるだろう。

今後も教育委員会として取組をしっかりアピールし、よりよい教育の充実を図られたい。

学識経験者

甲子園大学非常勤講師、元大阪教育大学教授	島（しま）　善信（よしのぶ）
シップヘルスケアホールディングス株式会社代表取締役会長 CEO	古川（ふるかわ）　國久（くにひさ）
吹一・吹六地区青少年対策委員会委員長	村田（むらた）　芳昭（よしあき）

参　考　資　料

用語解説

吹田市教育大綱

当初予算における教育関係予算

教育委員会事務局組織図

＜ア行＞

【ＩＣＴ支援員】(P.15)
業務を委託された事業者から支援員が、年間 24 回（月 2 回相当）以上、各小・中学校を訪問し、情報教育機器等を活用した授業づくりや校務事務をサポートします。

【1 号認定・2 号認定】(P.6)
子ども・子育て支援新制度において設定されている支給認定区分。幼稚園、保育園、認定こども園等を利用する場合、子供の年齢や教育の希望、保育の必要性に応じて支給認定を受ける必要があります。満 3 歳以上の児童で幼稚園、認定こども園（幼稚園部分）を利用する場合は 1 号認定を、満 3 歳以上の児童で保育所、認定こども園（保育所部分）を利用する場合は 2 号認定が必要です。

【ＷＩＳＣ Ⅳ】(P.22)
ウィスクフォー。5 歳 0 か月～16 歳 11 か月の子供を対象にした、世界で広く利用されている児童用知能検査。

【英語指導助手】(P.15)
児童・生徒の英語発音や国際理解教育の向上のために配置する英語を母国語とする外国人講師。小・中学校において英語担当教員の助手として活動しています。本市では「AET（アシスタント イングリッシュ ティーチャー)」と呼び、英語教育指導又は、それに準ずる経験をしており、教育に携わるのに適した指導技術をもっている等、要件を満たすことを条件としています。

＜カ行＞

【基礎的環境整備】(P.22)
合理的配慮の充実を図るため、必要な財源を確保し、インクルーシブ教育システム（障がいのある者と障害のない者が、ともに学ぶ仕組み）の構築に向けた取組として、教育環境の整備を行うこと。

【キャリアステージ】(P.36)
教職員一人ひとりの経験の過程や職務のこと。

【教育課程特例校】(P.15)
学校又は地域の特色を生かし、学習指導要領等によらない特別の教育課程を編成し教育を実施することができる学校。文部科学省が特別の教育課程編成・実施計画を審査し、指定を決定します。

【(公社) シルバー人材センター】(P.34)
経験や技能を生きがいや健康増進に役立てたいと考えている定年退職したり、家業を離れたりした 60 歳以上の方を対象に、臨時的、短期的な仕事を提供する公益社団法人。

【合理的配慮】(P.22)
障がいのある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を確保するために、必要な変更・調整を行うことであり、状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの。

【幸齢社会】(P.26)
高齢者が住み慣れた地域において、健康で幸せに齢を重ねていくことが出来る社会を意味する造語。

【国際理解教育】(P. 15)
　世界の人々が国を越えて理解し合い、互いに人間として尊厳と信頼をもって協力することを理念とした教育。

【子ども・子育て支援新制度】(P. 6)
　すべての家庭が安心して子育てができ、子供たちが笑顔で成長していくために、平成 27 年 4 月にスタートした新制度。この新制度が目指すのは、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援を量と質の両面から拡充を進め、社会全体で子供の育ちや子育てを支えることです。

【子ども・若者支援地域協議会】(P. 30)
　社会生活を円滑に営む上での困難を有する子供・若者に対する支援が効果的かつ円滑に実施されるよう、関係機関等で構成されるています。子ども・若者育成支援推進法（平成 21 年法律第 71 号）により、地方公共団体に対し、同協議会を設置する努力義務が課され、本市では平成 29 年 3 月に設置しました。

【個別の教育支援計画】(P. 22)
　障がいのある児童生徒等の一人ひとりのニーズを正確に把握し、教育のみならず、医療、福祉、労働等の関係機関との密接な連携協力のもと、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じ、一貫して的確な支援を行うことを目的として作成される計画のこと。

【個別の指導計画】(P. 22)
　個別の教育支援計画を踏まえ、学校における一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導目標、内容、方法などを具体的にまとめた計画のこと。

＜サ行＞
【社会的ひきこもり】(P. 30)
　様々な要因の結果として社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には 6 か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態。

【「社会的ひきこもり」吹田市ネットワーク会議】(P. 30)
　「社会的ひきこもり」に対する市内の支援機関が連携し、予防・支援方法の検討や研修を実施し、全体のスキルアップを図りながら、市内のひきこもり者に対して総合的な支援を行う会議体。青少年室（青少年活動サポートプラザ）が事務局となり、市の関係部局のほか、福祉、医療、労働関係などの機関で構成されています。
　この会議を母体として、平成 29 年 3 月、子ども・若者育成支援推進法に基づく、子ども・若者支援地域協議会を設置しました。

【生涯学習推進計画】(P. 24)
　市民が「いつでも、どこでも、だれでも」自主的に生涯学習に取り組むために、生涯学習の都市づくりをめざして施策の方向を明らかにした計画。平成 28 年度からは新たに策定した第 3 次吹田市生涯学習（楽習）推進計画に基づき事業を推進しています。

【生涯学習吹田市民大学】(P. 24)
　平成 20 年 10 月に開設。すべての市民を対象に、学びを通じて様々な生涯学習活動の契機となり、人生をより豊かにするための教養を深める学びの場。市民自らが企画・運営を担えるような新しい形態の総合的な生涯学習の場をめざしています。また、時々の社会情勢や現代的課題を学ぶ社会教育の場としても位置づけ、地区公民館において開催する「特別講座」と市内の大学と連携して開催する「大学連携講座」を実施しています。

【小中一貫教育カリキュラム】(P.8)
　各中学校ブロックで「めざす子ども像」を共有し、特色ある小中一貫教育を進めるため、小学校と中学校が教育の独自性と連続性を踏まえ編成した、9 年間の教育課程のカリキュラム。

【小中一貫教育実施プランⅡ】(P.8)
　小中一貫教育を推進するため平成 16 年度に策定した「吹田市小中一貫教育実施プラン」に続き、平成 26 年度からの 5 年間に教育委員会と学校が取り組む項目を示した計画。4 つの重点項目として、①授業改善に向けた小中合同研修、②コミュニケーション力の育成、③中学校での小学校 6 年生の教育活動の推進、④保護者、地域への積極的な発信を掲げています。

【すいたえいご kids】(P.15)
　小学校 3・4 年生を対象に、英語だけに触れる世界を楽しみながら、児童が英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を目標とした体験活動。

【すいたえいご week】(P.16)
　市立小学生 6 年生の全児童を対象に、市内の英語体験学習施設で、英語体験学習を行う。児童に小学校外国語活動の中で学んだことが活用できたと実感を持たせ、またこの体験活動を通じて、児童自身が学習到達目標を達成できたかどうか自己評価できます。

【スクールソーシャルワーカー】(P.18)
　いじめや不登校、暴力行為、児童虐待など、様々な課題に対応するため、教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的知識・技術を用いて、子供たちが置かれた環境に働きかけ、支援を行う者。本市では、現在、各中学校ブロックに 1 人を配置し、子ども家庭センターや保健センターなど関係機関と連携しながら課題の早期解決に努めています。略称はＳＳＷ。社会福祉または精神保健福祉士の資格を有する者を採用しています。

【スターター】(P.35)
　新 1 年生に対して授業中での個別の学習支援や学校生活における仲間づくり等の支援を行う支援者の呼称。小・中学校、高等学校または幼稚園の教諭免許及び保育士の資格を有する者を採用しています。

【千里みらい夢学園】(P.8)
　竹見台中学校・桃山台小学校・千里たけみ小学校の 3 校で構成する本市初の施設分離型小中一貫教育校。平成 23 年 4 月開園。

【全国学力・学習状況調査】(P.13)
　文部科学省が平成 19 年度から実施している、全国的な学力・学習状況の調査。対象は、小学校 6 年生、中学校 3 年生。義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的にしています。

【総合的人間力】(P.8)
　確かな学力、豊かな心、たくましい体（知・徳・体）のバランスの取れた力。生きる力。

＜タ行＞
【太陽の広場】(P.27)
　こどもプラザ事業の取組のひとつ。文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」として、異学年の児童が一緒になって遊び、子供の自主性、創造性などを育むため、小学校の施設や地域における学習資源などを活用して、子供たちが安心して安全に過ごせる居場所を提供しています。

【地域教育協議会】(P. 24)
学校・家庭・地域間の連絡調整をはじめ、地域教育活動の活性化と学校教育活動への支援・協力を目的に、中学校区ごとに組織化された、子供のための協議会。幼稚園・保育園、小・中学校、ＰＴＡ、青少年育成団体、自治会、公民館、地域の有志などで構成されており、講演会や継続的な体験活動、子供たちの教育に関わる大人のネットワークづくりなどを行っています。

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】(P. 1)
地方公共団体における教育行政に必要な組織とその運営の基本を定めた法律。
（抜粋）（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
第二十六条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たつては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

【中学校ブロック】(P. 8)
同一中学校区内に所在する公立の幼稚園、小学校、中学校で構成する教育的な活動の単位。、公立保育所も連携して取組を実施している中学校ブロックもあります。

【デイジー図書】(P. 24)
デジタル録音された音声図書。パソコンで音声データを録音し、編集作業を施して本と同じように見出しやページで呼び出したり、飛ばし読みができる。録音テープに替わる次世代の音訳図書。利用には専用の機器が必要。

【読書活動支援者】(P. 15)
小・中学校で、読み聞かせ活動やブックトークなどの直接の授業支援や、調べ学習の資料収集などの授業準備への支援、さらに図書の整理、修理、廃棄や掲示物の作成などの学校図書館の環境整備などに従事する本市独自の支援者。司書または司書教諭の免許を有する者を採用しています。

＜ナ行＞
【認定こども園】(P. 6)
教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設です。保護者が働いている、いないにかかわらず受け入れて、就学前の子供に幼児教育・保育を提供する機能と地域における子育て支援を行う機能を備えています。それらの機能を備え、設置基準を満たす施設は、都道府県等から認定を受けることができます。認定こども園には、地域の実情や保護者のニーズに応じて選択が可能となるよう幼保連携型、幼稚園型、保育所型、地方裁量型等のタイプがあります。吹田市の公立では、幼稚園型 8 園、幼保連携型 1 園があります。

＜ハ行＞
【発達相談員】(P. 22)
言語聴覚士や作業療法士（または特別支援教育士）の資格を有する相談員（市非常勤職員）のことです。特別な支援が必要と思われる子供に対して、各学校・園が早期に適切な支援ができるよう、授業参観を通じた教職員への助言等を巡回相談時に行うことで学校・園を支援します。また、教職員や保護者を対象とした特別支援教育に係る研修の企画・運営及び講師等を担います。

【放課後子ども総合プラン】(P. 27)
　厚生労働省と文部科学省が共同して策定した計画。共働き家庭等の「小 1 の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備等を進めることを目的にしています。

＜マ行＞
【学びのスタイル】(P. 8)
「めあての提示→個人学習→ペア・グループ学習→全体学習→まとめ→振り返り」という構成で展開される、千里みらい夢学園が提唱する小中学校が共通して行う授業の進め方。

【めざす子ども像】(P. 8)
　小中連携の柱として、すべての中学校ブロックにおいて実態に応じて設定・共有する、「子供に身につけさせたい力」などの目標。

＜ヤ行＞
【ユニバーサルミュージアム】(P. 26)
　展示・解説の仕方、施設・設備、サービスのあり方に、出来るだけ文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる設計を取り入れた、だれもが安心して楽しめる博物館等の施設。

＜ラ行＞
【リーディングスクール】(P. 8)
　学校教育において先駆的な取組を実施するとともに、その成果を発信することで、他校のモデルとなる学校のこと。

【臨時雇用員】(P. 17)
　アルバイトの職員。

吹田市教育大綱

平成２７年４月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１条の３に基づき、吹田市及び吹田市教育委員会が互いに連携して教育行政を推進するために、以下の教育に関する理念と基本目標を「吹田市教育大綱」として策定します。

１　理念

今　吹田から　未来（あす）の力を

～生命（いのち）かがやき　ともにつながり　未来（あす）を拓（ひら）く吹田の教育～

すべての人々が生命をかがやかせて、人や社会とつながりながら、今を確かに生き抜き、近い将来を含めて、未来を拓く吹田の教育を進めます。

２　基本目標

本市の教育を推進するために、以下の３つの基本目標を定めます。

基本目標１　総合的人間力の形成　～学びを高め、健やかな心と体を育む教育～

小中一貫教育を基本として、子どもたちの確かな学力、豊かな心と健やかな体（総合的人間力）を育むとともに、すべての人々が生涯にわたって学び、楽しみ、個性や能力を発揮しながら自己実現を図る社会をめざします。

基本目標２　社会全体の教育力の向上　～支え合い、地域とともに歩む教育～

家庭、学校、地域、関係機関など多様な主体が、互いに連携・協力して、教育課題を共有しながらその解決を図り、地域に根ざした質の高い教育の創造をめざして社会全体で教育力の向上に取り組みます。

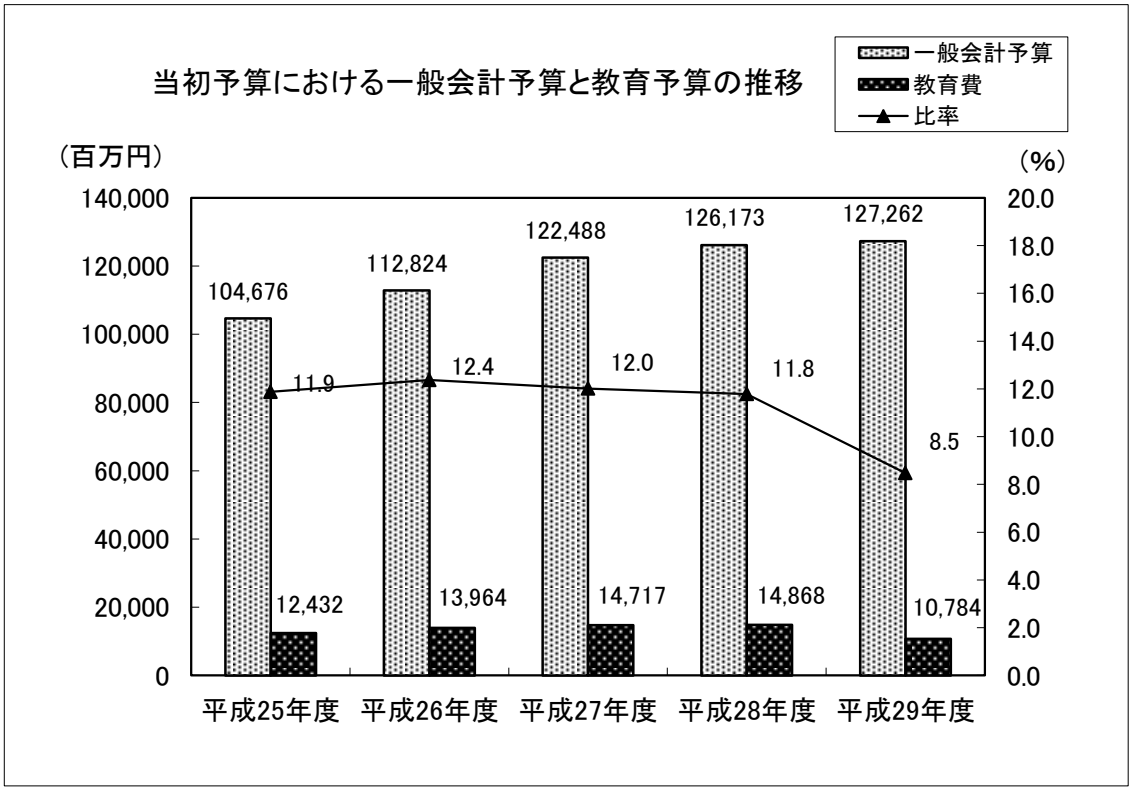
基本目標３　豊かな教育環境の創造　～豊かな学びを支援する教育環境～

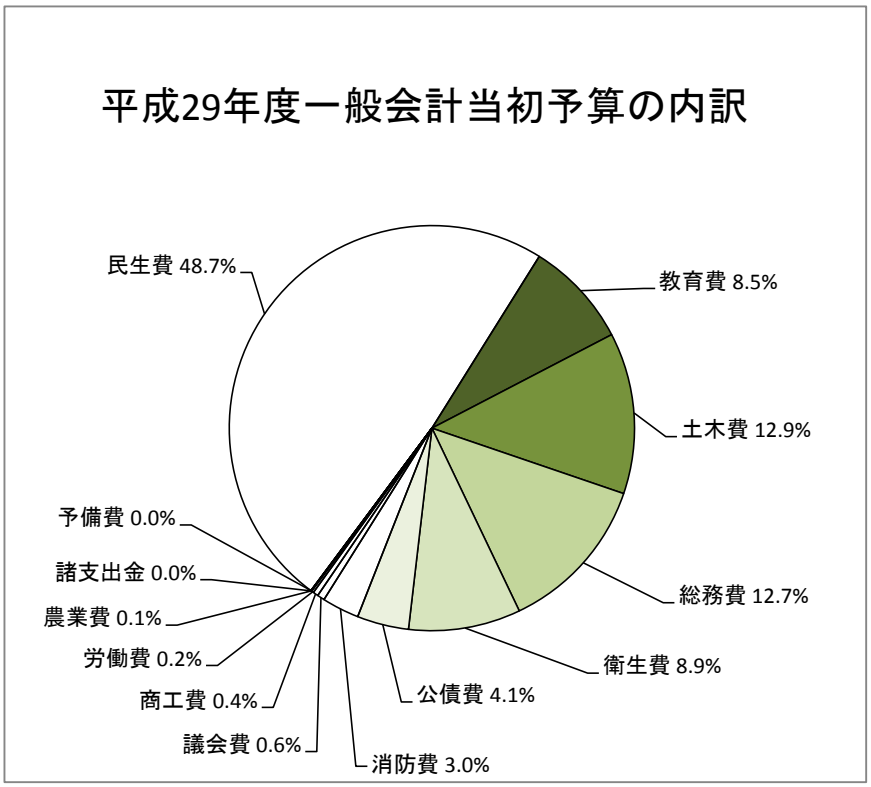
安心と安全のもと豊かな空間で学び、生活できるように学校施設・社会教育施設・スポーツ施設の整備を図るとともに、信頼と責任のある教育環境を創造します。

平成 27 年（2015 年）11 月

吹田市長 後藤圭二

【当初予算における教育関係予算】





〔教育費の内訳〕

教育総務費 15.3%
小学校費 17.5%
中学校費 8.9%
幼稚園費 16.9%
社会教育費 27.1%
保健体育費 14.4%

【教育委員会事務局組織図】

平成２９年４月１日現在

- 教育委員会
  - 事務局
    - 学校教育部
      - 教育総務室
      - 学務課
      - 教育政策室
      - 保健給食室
      - 指導室
      - 教職員課
      - 教育センター
    - 地域教育部
      - まなびの支援課
        - 地区公民館(29)

吹一※	山一	南吹田	東山田	山五
吹二	山二	南千里	片山	
吹三	山三	南山田	江坂大池	
吹六	岸一	山手	東佐井寺	
千一	岸二	吹田東	北山田	
千二	豊一	北千里	佐井寺	
千三	豊二	西山田	千里新田	

※分館として、「さんくす分館」

      - 中央図書館
        - 千里図書館
          - 千里図書館北千里分室
        - さんくす図書館
        - 江坂図書館
        - 千里山・佐井寺図書館
        - 千里丘図書館
        - 子育て青少年拠点夢つながり未来館
        - 山田駅前図書館
          - 山田駅前図書館山田分室
      - 文化財保護課
        - 博物館
        - 旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）
        - 旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）
      - 青少年室
        - 自然体験交流センター
        - 少年自然の家
        - 青少年クリエイティブセンター
      - 放課後子ども育成課
      - 子育て青少年拠点夢つながり未来館

幼稚園(16)

※吹田第一	千里新田	江坂大池	東山田
吹田第三	東佐井寺	片山	南山田
※吹田南	岸部第一	山田第一	※佐竹台
千里第二	豊津第一	山田第三	古江台

※幼稚園型認定こども園

小学校(36)

吹田第一	千里第三	江坂大池	南山田	藤白台
吹田第二	千里新田	山手	西山田	青山台
吹田第三	佐井寺	片山	北山田	★桃山台
吹田東	東佐井寺	山田第一	千里丘北	★千里たけみ
吹田南	岸部第一	山田第二	佐竹台	
吹田第六	岸部第二	山田第三	高野台	
千里第一	豊津第一	山田第五	津雲台	
千里第二	豊津第二	東山田	古江台	

中学校(18)

第一	第六	豊津	山田東	★竹見台
第二	片山	豊津西	千里丘	古江台
第三	佐井寺	山田	高野台	
第五	南千里	西山田	青山台	

★千里みらい夢学園